



376.7
N16



始



1-3521

~~283-24~~

376.7
N16

緒 言
目 次

第一、現在ノ高等學區

一、自然ノ地勢ニヨル區分

二、人文ノ發達ニヨル區分

三、結 論

第二、將來ノ高等學區

一、學區設定ノ要件

二、増設ニ伴フ學區配置

三、第一地方増設ノ學區

第三、新設高等學校ノ位置

一、交通上ヨリ見タル位置

二、氣象上ヨリ見タル位置

一頁

七頁

七頁

八頁

一六頁

一六頁

一七頁

二〇頁

二二頁

二二頁

二四頁

大正
7. 2. 20
内交

- 三、衛生上ヨリ見タル位置
- 四、風教上ヨリ見タル位置
- 五、教育上ヨリ見タル位置

三〇頁

四三頁

五〇頁

第四、高等學校ノ位置トシテ長野市ノ適當ナリト認ムル事項

六三頁

一、地理ニ關スル事項

六三頁

二、衛生ニ關スル事項

六五頁

三、民情ニ關スル事項

六七頁

四、教育ニ關スル事項

六七頁

五、經濟ニ關スル事項

六八頁

六、其他ノ事項

六九頁

高等學校設立調査書

緒言

現今ニ於ケル高等學校ノ數ハ人文ノ發達ニ伴ハズ。其配置ハ地方ノ狀況ニ適切ナラズ。爲ニ青年學生ヲシテ進路ヲ妨ゲ前途ニ迷ハシムルモノ甚ダ多シ。今ニ於テ更ニ數校ノ増設ヲ計ルハ專門學校ト共ニ我國教育施設上最モ焦眉ノ急ナリトス。



學制系統ノ確立ハ國家將來ノ教育方針上急務タルハ勿論ナレドモ慎重審議ヲ待チテ後解決スベキ問題ニシテ之ガ爲ニ前項學校ノ増設ヲ遲延セシムルハ甚シキ國家ノ損失ナリトス。今ヤ教育調査會ノ成立セルアリ。學制問題ノ解決近キニアリトセンニ若シ從來ノ高等學校ガ單ニ年限ノ短縮ニヨリテ大學豫備校

タルニ於テハ勿論仮令同校ガ高等普通教育ノ機關トナルモ或
ハ中學校ノ年限ヲ延長シテ豫備校タルニ至リタリトスルモ我
國運ノ進歩ニ鑑ミ地方ノ状態ニ察セバ官公私立ヲ通ズルモ尙
同校ノ數及ビ配置ハ現状ヲ以テ足レリトスル能ハザルベク現
ニ中學卒業生ノ進マントシテ入ルニ學ナク中途ニシテ其志ヲ
擲ツ者頗ル多キハ萬人ノ等シク睹聞スル事實ナレバナリ。
高等學校ハ國家教育ノ施設ニシテ一地方ノ私スベキモノニア
ラザルガ故ニ其配置ハ一縣一郷ノ利害ヲ以テ云爲スルヲ許サ
ズ。之ガ増設ニ當リテハ自然ノ地勢ト人文ノ發達トヲ考覈シテ
學區ノ分割ヲ定メ然ル後區内便宜ノ地ヲ撰ミテ各地ノ地理的
要件ト歴史的素要トヲ調査シ因テ學生ノ健康勉學ノ適否ヲ攷

二

ヘ風教民情ノ可否其他四圍ノ狀況ニ顧ミテ學生修養ノ難易ヲ
察スルノ外苟モ學校設置ニ必要ナル條件ハ細大精査スルコト
ヲ得テ始メテ其位置ヲ決定スベキモノナリ。本市ハ茲ニ公平無
私ノ見地ニ立チ以上ノ調査ヲ試ミタルノ結果固ヨリ遺漏ナキ
ヲ保セズト雖モ次ノ數項ニ關シテハ其主張ノ敢テ誤リナキヲ
信ズルモノナリ。

一、高等學校ノ最モ急ヲ要スル地方ハ第一高等學校ノ範圍ニ
屬スル區域ヲ第一トシ中國九洲ニ亘ル區域ヲ第二トス。之ニ
次ギテハ關東地方及ビ四國地方ニ更ニ一校ヲ増設スベク奥
羽以北ノ區域ニアリテハ文化ノ度漸ク進ムニ至リテ一校増
設ノ必要ヲ生ズベシ。斯クテ既設ノ學校ト合セ始メテ配置ノ

三

平衡ヲ保チ從來ノ損失ヲ補フコトヲ得ベシ。

二、前項第一高等學校ノ區域ニ増設スベキ最初ノ一校ハ信越地方ヲ以テ至當ナリトシ群馬山梨ノ二縣及ビ埼玉縣ノ一部ハ此學區中ニ包含セラレベキモノトス。

三、信越地方ニ於ケル學校ノ位置ハ新潟長野二縣ノ狀況ヲ精査シ尙ホ學區ノ中心地點ヲ占ムル長野市ト是ヨリ南北殆ンド等距離ニ在ル高田市松本市トヲ比較考察シテ長野縣長野市ヲ以テ最モ適當ナリト斷言スルモノナリ。

本調査書ハ以上ノ結論ニ到達セル調査ノ概要ヲ述ベント欲スルモノナレドモ文部省及ビ教育調査會ハ既ニ確立セル計劃ニヨリ國家教育ノ政策動カスベカラザルモノアルハ信ジテ疑ハザル所茲ニ吾人ノ所信ヲ陳ブルハ極メテ杞憂ニ過ギザルガ如シト雖モ吾人ハ現ニ全國學區中最モ不權衡ナル區域内ニ住シ痛切ニ子弟ノ不便ヲ感得セル者。而シテ比隣相往來シテ能ク地方ノ眞事情ヲ知ルニ易キヲ以テ地ヲ相スル當サニ禍根ヲ將來ニ貽サダラント欲スルノ微意ニ外ナラズ。若シ幸ニシテ當局ノ一顧ヲ煩ハシ世人ノ一考ヲ促スコトヲ得バ望外ノ満足トスル所ナリ。

大正六年十二月

長野市

第一、現在ノ高等學區

一、自然ノ地勢ニヨル區分

既設高等學校ノ位置ヲ基點トシ海陸ノ斷續山川平野ノ形勢等ニヨリテ全國ヲ八學區ニ分チタルモノ之ヲ表記スレバ左ノ如シ

第一表

(掲記ノ數字ハ第三十五統計年鑑及ヒ文部省第四十三年報ニヨル)

學區府縣別	面積	人口	學校別生徒數	地方別生徒數	他學區ニ入學スベキ生徒數	他學區ヨリ入學スベキ生徒數
北海道、青森、秋田、岩手、山形、宮城、福島	一〇、三六二・四三	七、二六七・六〇〇	七、二六七・六〇〇	六九九	五八四	一一五
第一(東京) 茨城、千葉、埼玉、栃木、東京、群馬、山梨、長野、新潟	四、〇八八・三九	一三、八〇八・九〇〇	一三、八〇八・九〇〇	一、〇九五	一、五六七	四七二
第八(名古屋) 靜岡、愛知、岐阜、三重	一、八七四・二五	五、五六七・二〇〇	五、五六七・二〇〇	六五七	五七七	八〇
第四(金澤) 富山、石川、福井	八〇八・七四	二、二〇〇・六〇〇	二、二〇〇・六〇〇	七四五	三五一	三九四
第三(京都) 京都、奈良、大阪、兵庫、和歌山、滋賀	一、七六七・四五	七、四五六・〇〇〇	七、四五六・〇〇〇	九〇一	八八四	一七
第六(岡山) 鳥取、岡山、島根、廣島、山口、香川、德島、愛媛、高知	三、二七〇・二二	八、三七七・七〇〇	八、三七七・七〇〇	六二二	一一二	四八九
第五(熊本) 大分、佐賀、福岡、長崎、熊本	一、六二九・九五	五、七四八・三〇〇	五、七四八・三〇〇	八二四	八一	一一三
第七(鹿児島) 宮崎、鹿兒島	一、一三七・三三	二、四八五・五〇〇	二、四八五・五〇〇	六五七	三一五	三四二
總計	平均 一、五〇三・八五	平均 五、二九一・八八	平均 五、二九一・八八	平均 六、一三九・七五	平均 七、七五〇・一一	平均 六、二〇一・九六

(附記) 各地方ヲ呼ブニ高等學校ノ名稱ヲ仮リテ第一地方、第八學區等ト稱ス以下同ジ

前表ハ單ニ自然ノ地勢ニヨリテ區分シタルモノナルガ故ニ學區ノ大小人口ノ多寡及ビ地方生徒數ノ過不足等一見シテ各地方ノ不均衡ナル狀態ヲ知り得ベシ。

1、面積 面積ノ大小ハ必シモ學區ヲ分ツニ重要ナルモノニアラズシテ密度ノ大小學生數ノ多少ニ反比スルモノナレバ前表第二地方ノ最モ大ニ學區平均面積ヲ超ユルコト七、二三二平方里ナルハ止ムヲ得ザルベシ。サレド第一地方及ビ第六地方ノ何レモ平均以上ニアリ第四地方ノ平均面積ノ約四分ノ一ナルガ如キハ其當ヲ得タルモノニアラズ。

2、人口 第一地方ノ千三百八十八万人ニシテ全校平均人口ノ二倍強ナルヲ最多トシ第六地方ノ八百三十万人之ニ次ギ第三第二第五第八第七ノ順位ヲ以テ第四ノ最少二百二十万人ニ及ブ其最大最少ノ比ハ六・三ノ一〇ニ於ケルガ知シ。

3、地方別本籍生徒數 第一地方ハ一千五百人餘第六地方ハ一千一百人餘ヲ算シ各學校別生徒數ヲ超ユル人員第六地方ノ四百八十九人第一地方ノ四百七十二人ハ必然他學區ニ入ラザルベカラザルニ反シ其他ノ學區ハ悉ク收容力ニ餘裕ヲ有スルヲ見ル。殊ニ第七地方ハ三百四十二人第四地方ハ三百九十四人ノ學生ヲ他學區ヨリ補ハザルベカラズ。以テ其不均衡ナルヲ察スルニ足ルベシ。

之ヲ要スルニ以上ノ區分ハ各地方ニヨリテ著シキ得失ノ差ヲ來シ到底學區分配ノ價值ナキモノトス。

二、人文ノ發達ニヨル區分

前項ノ欠點ヲ補ハシ爲ニ現在ノ高等學校ノ數及ビ位置ヲ中心トシ專ラ地方交通機關ノ發達ヲ考慮シテ時間的ニ距離ヲ短縮シ人口及ビ其密度ニヨリテ面積ヲ加減シ地方本籍生徒數(向學力)ト學校在籍生徒數(收容力)トノ多少ニヨリテ仮定人口ヲ算定シ以テ學區ノ配合更改ヲ試ミタルモノ。或ハ一部ヲ犠牲トセル嫌アルベシト雖モ及ブ限リ學區ノ均衡ヲ計ラント主眼トセルノ結果ニ外ナラズ。

第二表

(括記ノ數字ハ第三十五統計年鑑及ビ文部省第四十三年報ニヨル)

學校別	第二(仙臺)	第一(東京)	第八(名古屋)	第四(金澤)	第三(京都)	第六(岡山)	第五(熊本)	第七(鹿兒)	總計
學區府縣別	北海道、青森、秋田、岩手、山形、宮城、福島	茨城、千葉、東京、神奈川、埼玉、群馬、山梨、長野	新潟、富山、石川、福井、滋賀、京都、大阪、兵庫、和歌山	新潟、富山、石川、福井、滋賀、京都、大阪、兵庫、和歌山	京都、大阪、兵庫、和歌山	島根、岡山、鳥取、廣島、山口、徳島、香川	大分、佐賀、福岡、熊本、鹿兒島	宮崎、鹿兒島、高知	
面積	10,362.43	3,160.43	2,116.28	1,898.03	1,264.27	2,441.06	1,629.99	2,066.28	25,038.73
人口	7,267,600	11,931,300	6,147,400	4,749,400	6,204,600	6,594,400	5,748,300	4,268,800	55,291,100
學校別生徒數	699	1,095	657	745	901	623	824	657	6,201
(現在收容力)	699	1,095	657	745	901	623	824	657	6,201
全上人口一万ニ對スルノ比	0.96	0.91	1.07	1.57	1.46	0.94	1.43	1.54	1.17
地方別生徒數(現在向學力)	584	1,378	621	610	770	910	811	517	6,101
全上人口一万ニ對スル比	0.80	1.16	1.01	1.19	1.24	1.38	1.41	1.11	1.17
他學區ニ入學スベキ生徒數	0	283	0	0	0	287	0	0	570

他學區ヨリ入學 スベキ生徒數	一四五	〇	三六	一三五	一三一	〇	一三	一四〇	五七〇
收容力ニヨル仮 定人口	五、九六四、四〇〇	九、三四三、四〇〇	五、六〇六、一〇〇	六、三五六、九〇〇	七、六八八、〇〇〇	五、三二五、九〇〇	七、〇三三、〇〇〇	五、六〇六、一〇〇	五、二九一、八〇〇
向學力ニヨル假 定人口	四、九八三、二〇〇	一一、七五八、二〇〇	五、二九八、九〇〇	五、二〇五、〇〇〇	六、五七〇、二〇〇	七、七六四、八〇〇	六、九二〇、一〇〇	四、四一一、四〇〇	五、二九一、八〇〇
收容力人口ノ向 學力人口ニ對ス ル過不足	(+) 九八一、二〇〇	(-) 二、四一四、八〇〇	(+) 三〇七、二〇〇	(+) 一、一五二、九〇〇	(+) 一、一一七、八〇〇	(-) 二、四四八、九〇〇	(-) 一、〇〇〇、〇〇〇	(+) 一、一八四、七〇〇	(+) 四、八六三、七〇〇
收容力人口ノ現 實人口ニ對スル 過不足	(-) 三、三三三、〇〇〇	(-) 五、八七七、九〇〇	(-) 五、四一一、〇〇〇	(+) 一、六〇七、五〇〇	(+) 一、四八三、四〇〇	(-) 一、二七八、五〇〇	(-) 一、二八二、七〇〇	(+) 三、三三三、〇〇〇	(-) 五、七七一、〇〇〇

(附記) 卷首ノ地圖ヲ參照スベシ

第一表ニ比スレバ各地方ノ平均差ハ各項共著シク減少セルヲ見ルベク吾人ノ考案ヲ以テシテハ是以上ノ更改ハ殆ンド不可能ノ事ニ屬ス。而モ尙ホ些細ニ各學區ヲ比較シ來ラバ次ノ如キ利害得失ノ相反スル状態ニアルヲ免ル、コト能ハズ。

1、第二學區(仙臺)——北海道ヲ加ヘテ面積ノ大ハ全學區ニ冠タリ。人口モ亦平均ヨリ多キコト六十五萬人ナリト雖モ他學區ニ比シ人文ノ發達未ダ幼稚ナル地方ニシテ生徒ヲ出セル數宮城縣(學校所在ノ縣ハ全國共ニ出身生徒多シ)及ビ隣縣山形福島ヲ除キテハ他ハ悉ク全國ノ最低率ニアリ。學區ヲ平均スルモ人口一萬ニ對スル比〇・八〇ニ過ギズ。故ニ其收容力仮定人口ハ現實人口ニ比シテ百三十萬人ノ不足ヲ生ズレドモ向學力仮定人口ニ比スレバ九十八萬人ノ過剩ヲ有スルヲ以テ此地方ハ未ダ學校收容ノ餘裕尠カラザルヲ窺ヒ得ベキナリ。

2、第八區(名古屋)——面積人口共ニ平均數以下ニシテ地方別生徒數モ亦少ク人口一萬ニ對スル比一・〇一ニシテ全國第七位ニアリ。而シテ學校別生徒數即チ現在ノ收容力ハ略ボ前者ト匹敵シテ稍ヤ多ク其差僅カニ三十六人ヲ他學區ヨリ求ムレバ足ル。然レドモ學校位置ノ本洲中部ニアリテ第一地方ニ隣接スルヲ以テ(第四高等學校モ同一ナリ)第一高等學校ノ入學不能者ノ集リ來ルモノ多ク入學志願者ノ多數ナルハ第一高等學校ニ次ギテ一千人以上ヲ算シ入學者ノ百分比亦同ジク低率ナリ。(第三表ヲ參照スベシ)而シテ收容力仮定人口ハ現實人口ニ比シ五十四萬人ノ不足ヲ見レドモ向學力高カラザルガ故ニ其仮定人口ニ對シテハ尙ホ三十萬人ノ餘裕ヲ存セリ。

3、第四(金澤)第二(京都)第五(熊本)第七(鹿兒島)學區——面積人口何レモ平均以下ニアリ。各地方共學校別生徒數ハ地方別生徒數ニ超ユルヲ十三人乃至百四十人ナルガ故ニ收容力仮定人口ハ向學力仮定人口以上ナルハ勿論ナレドモ亦何レモ現實人口ニ超過シ第七第四第三ノ順位ニヨリ百十餘萬人ノ餘裕アリ。唯獨リ第五地方ハ向學力ノ人口比一・四一ニシテ全國第一位ニアルヲ以テ其差僅カニ十一萬人ニ過ギズ。

4、第六學區——西部地方ニ於ケル最モ不權衡ナル學區ニシテ面積ノ大ハ第一地方ニ次ギ人口ノ多キコト第二地方ニ次グ而シテ地方別生徒數ノ多キコト亦第一地方ノ次位ニアリテ九百餘人ヲ算シ從テ向學力ノ人口比ハ第五地方ニ次ギテ全國第二位ニアリ。然ルニ學校別生徒數ノ少キコト全國ノ末位ニアリテ總數漸ク六百廿餘人ニ過ギズ。人口一萬ニ對スル比〇・九四ニシテ學校ノ大ハ第一高等學校ノ五割強ニ當ル。故ヲ以テ二

百八十餘人ノ學生ハ必然他學區ニヨリテ收容セラルベキ運命ニアリ。從テ其收容力仮定人口ハ向學力仮定人口ニ對シ二百四十五萬人現實人口ニ對シ百二十八萬人ノ不足ヲ生ゼルヲ見ル。然レドモ入學志願者ノ數極メテ少ク入學者ノ百分比二三・九九ナルニ徴スレバ本籍者ノ他學區ニ在住スルモノ多キヲ認メ得ベク一面ニハ收容力増加ノ方法モ亦難キニアラザルヲ以テ第一地方ノ急迫セル状態ニアルト同日ニ論ズベキニアラズ。

5、第一學區(東京) 而積ノ廣キコト第二地方ノ次位ニアリテ最小ナル第三地方ニ比シテ二・五倍餘ニ當ル。包容人口約一千二百萬人全國學區中ノ最多ナルヲ以テ學校生徒ノ收容總數一千餘人ニ及ビ全國學校中ノ最大校ヲナセドモ之ヲ人口一萬人ニ對スレバ漸ク〇・九一ニ過ギズシテ全國ノ最少率ニアリ。之ニ反シテ地方出身ノ生徒數人口一萬ニ對スル比ハ一・一六ニシテ其總數一千三百餘人ニ達スルガ故ニ其實數ノ差即チ收容不能ノ學生約三百人ハ必ズ他學區ニ走ラザルベカラズ。斯クノ如ク本學區ハ之ヲ他學區ニ比シテ極メテ不利ノ狀況ニアルノ事實ハ其收容力仮定人口ノ向學力仮定人口及ビ現實人口ニ對シ何レモ二百餘萬人ノ不足ヲ生ゼルニヨリ明カニ窺知スルコトヲ得ベシ。

尙ホ吾人ハ茲ニ考察セザルベカラザル一問題ヲ有ス。即チ第一地方及ビ之レニ近キ府縣ニツキ直轄學校生徒本籍別數ヲ檢スルニ獨リ東京府ノ人口一萬ニ對スル比一二・四ニシテ全國ノ首位ヲ占メ長野縣ノ五・四ヲ以テ全國平均五・三以上ニアルノ外山梨、新潟、静岡、栃木、茨城諸縣ノ四・六乃至四・〇ナル殊ニ東京府ヲ圍繞スル神奈川、千葉、埼玉ノ諸縣ハ三・九乃至三・四ニシテ僅カニ北海道、青森、秋田諸縣ノ上ニアルニ過ギス。高等學校

生徒ニ於テモ亦之レト異ナルナク眞ニ構ムベキ状態ニアルノ事實ナリトス。論者或ハ評シテ第一地方ノ向學心遙カニ他地方ニ劣レルヲ嘲リ。人材ノ輩出ハ關東地方ノ途ニ關西地方ニ及ビ難キヲ誹ル。極メテ皮想ノ觀察ト云ハザルベカラズ。若シ夫レ些細ニ其原因ヲ探究シ來ラバ全ク學校配置ノ均衡ヲ失シ學區ノ定案未ダ成ラザルノ結果ニ歸スベク第一地方ノ青年學生ガ斯カル不幸ノ境域ニ立チ不便ヲ排シテ尙ヨク現状ヲ保ツヲ得ルハ却ツテ向學心ノ他ニ優リテ旺盛ナルモノアルニ依レバナリ。之ヲ高等學校ノ上ニ見ルニ第一高等學校ノ位置タル帝都ハ全國他府縣ニ本籍ヲ有スル在住者頗ル多ク從テ同校入學志願者ハ事實上他地方本籍者ノ多數ヲ加フルハ世人ノ認ムル所而シテ前表ニ示スガ如ク全學區中ニアリテ必然他學區ニ入學セザルヲ得ザル人員ハ第一地方及ビ第六地方ノ合計五百六十餘人アルノミ其他ノ地方ハ悉ク他學區ヨリ入學者ヲ採ルニアラザレバ充員シ能ハザルモノ。然ルニ却ツテ其地方ノ本籍者中第一高等學校ニ入學スルモノ多キ事實ハ反對ニ第一地方ノ入學者ヲ益々驅逐シテ其入學率ヲ著シク低減セシムル原因トナルハ明ニシテ之ヲ全國入學者ノ實際ニ見ルトキハ次表ノ如シ。

第三表

(文部省第四十三年報ニヨル)

入學志願者	九七七	三二二九三	三六〇、一	一〇、七八	一、三三五	九一三	一、〇四九	九六八	九七二六
學 校 別	第二(仙臺)	第一(東京)	第八(名古屋)	第四(金澤)	第三(京都)	第六(岡山)	第五(熊本)	第七(鹿兒)	總 計
地 方 別	東北、北海道	關東信州地方	本洲中部地方	北陸地方	近畿地方	中國地方四國ノ一部	九州北部地方	九州南部地方四國ノ一部	

入學者	入學志願者百人ニ對スル入學者ノ比	入學不能者
二二七	二四・二六	七四〇
三五七	一五・五七	一九三六
二二九	二一・五四	八三四
二四四	二二・六三	八三四
三二五	二二・九一	一〇六〇
二一九	二二・九九	六九四
二八〇	二六・六九	七六九
二四〇	二二・七六	七三八
二二二	二一・七三	七六〇五

第四表

(文部省第四十三年報ニヨル)

年度別	入學志願者	入學者	入學志願者百人ニ對スル入學者ノ比
明治四十四年度	八、〇八二	二、一九九	二七・二一
大正元年度	九、一八五	二、〇六五	二二・四八
大正二年度	九、〇五三	一九八〇	二二・四三
大正三年度	九、四二七	二、〇二五	二一・四八
大正四年度	九、七二六	二、一一一	二一・七三

我國學生ノ大學ニ進ムノ至難ナルハ其第一關門タル高等學校ノ入學志願者約一萬人ニ對シ入學者ハ漸ク二人内外ヲ數フルニ過ギザルニ因リテ知ルコトヲ得ベシ。殊ニ第一高等學校ニアリテハ入學志願者二千三百人ニ達シ全國志願者ノ四分ノ一弱ヲ占メ入學者ハ僅カニ三百五十人ニシテ全國入學者ノ六分ノ一ニ當ルノミiscal入學率ノ低キ地方ハ他ニ其例ヲ見ザル所同校ノ入學ガ他校ニ比シテ如何ニ困難ナルカヲ察スルヲ得ベシ。而シテ之等入學不能者約二千人ノ内ニハ亦他府縣出身者ノ多數ヲ加フルハ事實ナレドモ別ニ地方別生徒數ニヨリ第一地方ノ在籍生徒總數一千三百七十八人ニ就キ假リニ其三分ノ一即チ三百六十五人ヲ一ヶ年ノ入學者ト見做シ入學百分比(一五・五七)ニテ除シタル商二千三百四十四人ハ入學志願者ノ數トナルベク入學者數ト

ノ差一千九百七十九人ハ全然入學シ能ハザル者タルベク略ボ前者ト等數ニシテ同マク全國落伍者ノ四分ノ一ヲ占ムルノ止ムヲ得ザル結果ヲ見ルベシ。此現象ハ又一面ニハ比較的距離ノ近接セル第四(金澤)第八(名古屋)二校ノ入學志願者ヲ増加セシメ兩校ノ入學者百分比ヲ著シク低下セシメツ、アルノ事實ニヨリテ容易ニ推測スルコトヲ得ベシ。果シテ然ラバ第一高等學校ハ東京府ヲ除キテハ第一地方ヲ學區トセル學校ニアラズシテ寧ろ全國ヲ學區トセル共通ノ一學校ト見ルベク第一地方ハ遂ニ一學校ヲモ有セザルナリト云フモ過言ニアラザルベシ。斯クテ該地方入學不能者ノ大半ハ初志ヲ擲チテ或ハ專門學校ニ或ハ私學ニ向學ノ道ヲ轉ジ其大半ハ終ニ廢學ノ止ム能ハザルニ至ル。此ニ於テ第一地方ハ全國他地方ニ見ルガ如ク學校所在地ニ近接セル各府縣出身學生歩合ヲ増加シツ、アルトハ全ク異ナレル事情ノ下ニアルヲ以テ前述東京府ヲ圍繞セル諸縣ノ等シク學生歩合ノ最劣等ニ位スルノ理亦自ラ釋然タルモノアルベキナリ。之レ恰モ門戸ヲ鎖シテ入ル者ヲ拒ミ天下ハ却ツテ其入ラザルヲ責ムルト等シク寧ろ慘酷ノ處置ト云ハザルベカラズ。曩ニ我文部省ハ入學試驗制度ヲ改メ全國ヲ通ジテ入學シ得ルノ便法ヲ設ケラル。爲メニ入學歩合ノ低キ地方ヨリハ高キ地方ニ流動スルコトヲ得ルト且ツ全國學校ヲ通ジテ入學能力ノ比較的均一ヲ保ツヲ得ルトノリアレドモ入學者ニトリテハ必然距離ノ延長ヲ伴ヒ經濟的限界度ヲ高ムルノ不利アルノミナラズ父兄ニ於テモ亦多少ノ不安アルヲ免レズ。之ヲ以テ第一地方若クハ第六地方ノ如キ未ダ全ク其不均衡ヲ償ヒ得タリトハ云フベカラザルナリ。

6、結論——之ヲ要スルニ現在ニ於ケル我國高等學校ノ數及其配置ヲ以テハ到底満足シ能ハザルトコロニシテ更ラニ數校ヲ増シテ入學者ノ數ヲ加ヘ學區ノ均衡ヲ保タシムルノ極メテ急務タルヲ感ズルモノナリ。而シテ此問題タル亦實ニ國家積年ノ宿題タリシニモ拘ラズ歴代内閣ノ逡巡決シ能ハザリシトコロ。聞クガ如クンバ現内閣ハ茲ニ萬難ヲ排シテ數校増設ノ企劃ヲ定メ位置ノ決定セラル、將サニ近キニアラントスト之レ最モ時宜ニ適切ナル政策ニシテ之ガ實現ハ眞ニ我國文教史上ニ一紀元ヲ劃スルモノト云フベク吾人ハ切ニ其實行ノ速ナランコトヲ切望シテ止マザルモノナリ。

第二一 將來ノ高等學區

一、學區設置ノ要件

高等學校ノ増設ヲ豫期シ將來ノ學區ヲ定メンニハ主トシテ人文ノ發達ト自然ノ形勢トニヨリテ所屬府縣ノ合ヲ計ラザルベカラズ。就中交通ノ便否ハ區域ノ廣狹ニ至大ノ影響ヲ及ボスモノナレバ最モ注意スベキ要件ナリトス。尙各府縣向學心ノ如何ハ包容人口ト密接ナル關係アルハ勿論ナレドモ之ガ多少ハ他ノ條件ト異リ不變ノ係數ヲ有スルモノニアラズシテ學校ノ所在遠近ニヨリテ増減シ入學ノ難易交通ノ便否ニヨリテ變動シ更ラニ地方教育ノ狀態産業ノ盛衰等ニヨリテ分タルモノナレバ現在ニ於ケル府縣出身學生ノ數人材輩出ノ成績ハ過去及ビ現在ノ適否ヲ立證スルニハ確カナレドモ之ヲ以テ將來ノ尺度トナスハ正シト云フベカラズ。

殊ニ世界戦乱ノ影響ハ急速ナル地方ノ開發ヲ促シ從テ子弟ノ向學心ヲ増進セシメタルコト尠シトセズ。第二學區ノ如キ稍ヤ弛緩ノ狀態ニアルベシト雖モ他ノ地方ニ於テハ若シ學校ノ分配宜シキヲ得バ各學區入學者ノ數ハ次第二均衡ヲ回復シ遂ニハ殆ンド人口ト正比スルニ至ルベキハ明ニシテ今後ニ於ケル學區ノ設定ハ寧ロ人口ノ均一ナル分配ヲ要件トナスノ誤リ少カルベシ。而シテ各府縣中學校生徒ノ數ハ聽テ本校ニ入學スベキ學生ノ卵子ニシテ之又等閑ニ附スベカラザル標準タリトス。

二、増設ニ伴フ學區ノ配置

前述ノ要件ニ留意シ二校又ハ四校増設ノ二場合ヲ豫定シ學區ノ配置ヲナシタルモノ本調査書卷首ニ掲ゲタル地圖及ビ附表ニ示スガ如シ。而シテ各學區ノ均衡及ビ連絡等現在學區ニ優リタル狀態ハ次表ニヨリテ窺ヒ知ルコトヲ得ベシ。

第五表

區分	校數	學區		人口	均一人口	平均人口	
		最多	最少			最多トノ差	最少トノ差
現在	八校	(第一) 一、一九三、三〇〇	(第七) 四、二六八、八〇〇	七、六六二、五〇〇	六、六一三、九〇〇	五、三二七、四〇〇	二、一四四、五〇〇
二校増設	十校	(第一) 七、六〇七、八〇〇	(第五) 三、〇四〇、五〇〇	四、五六七、三〇〇	五、二九一、一〇〇	二、一三三、〇〇〇	二、一三三、〇〇〇
四校増設	十二校	(第三) 五、四四六、九〇〇	(第七) 二、四八五、五〇〇	三、九六一、四〇〇	四、四〇九、三〇〇	一、〇七六、〇〇〇	一、九二三、八〇〇

(附記) 第二學區ノ分割ハ必要ノ時期ニナスベキモノニテ現時ハ他學區ト事情ヲ異ニスルガ故ニ比較計算ニ加ヘズ。

第六表

(掲記ノ數字ハ文部省第四十三年報ニヨル)

地方別	學 校 別	交通ニヨル連絡ノ 狀況	人 學區別數	口 地方合計	中學校生徒數 學區別數地方合計	所 屬 府 縣 別
北部 地方	(E) 校 第二 (仙臺)		三、三〇六、一〇〇 三、九五二、一五〇〇	七、二六七、六〇〇	五、四二九 八、九三三	北海道、青森、秋田 岩手、山形、宮城、福島
東部 地方	C 校 第一 (東京)		四、九五七、八〇〇 四、五四〇、四〇〇 四、三二〇、七〇〇	一三、八〇八、九〇〇	一一、二九四 二〇、四二五 九、三七九	茨城、千葉、栃木、埼玉 東京、神奈川、山梨 群馬、長野、新潟
中部 地方	第四 (金澤) 第八 (名古屋) 第三 (京都)		三、九三六、八〇〇 五、〇八二、四〇〇 五、四四六、九〇〇	一四、四五六、一〇〇	八、五九八 一一、二三四 一四、二四三	富山、石川、福井、滋賀、岐阜 静岡、愛知、三重、奈良 京都、大阪、兵庫
西部 地方	第六 (岡山) D 校 B 校 第五 (熊本) 第七 (鹿児島)		四、〇六四、七〇〇 四、〇〇九、八〇〇 三、七六九、三〇〇 三、〇四〇、五〇〇 二、四八五、五〇〇	一一、八四三、八〇〇 九、二九五、三〇〇	一一、六五二 一〇、二七一 一一、二七一 八、七四四 五、二二五	鳥取、岡山、島根、広島 和歌山、徳島、香川、愛媛、高知 山口、大分、福岡 佐賀、長崎、熊本 鹿児島、宮崎、沖縄

(附記) 増設A B C Dノ四校ノ位置ハ仮リニ設ケタルモノニシテE校ハ將來ノ増設ヲ仮定セルモノナリ。

以上ハ各學區人口ノ可及的均一ヲ求メンガ爲ニ作成セルモノニシテ交通ノ關係ニヨリ二學區又ハ三學區ヲ以テ一地方部トシ部内各學校ノ連絡ヲヨリテ各學區間ニ於ケル不均衡ノ更ラニ減殺セラルベキヤウ配置シタルモノナリ。

之ヲ人口ノ上ニ見ルニ前表最多最少ノ差ハ現在ノ八校ヨリ二校増設ハ三、〇九五、二〇〇人ヲ減ジ四校増設ハ更ラニ一、六〇五、九〇〇人ヲ減ジ一校平均人口ニ對スル最多及ビ最少ノ差モ増設毎ニ漸次減少シテ何レモ百萬人臺ニ下レルヲ見ル。而シテ十二校ノ場合ニ於ケル後表地方別合計人口ニ見ルニ中部地方ノ一四、四五六、一〇〇人最モ多ク西部地方九洲部ノ九、二九五、三〇〇人ヲ最少トシ其差五、一六〇、八〇〇人ナレドモ地方部三校ノ連絡ニヨリテ更ラニ三分セラレ一校平均差ハ一、七三〇、三〇〇人ニシテ全校ノ最多最少差二、九六一、四〇〇人ニ比スレバ更ラニ一、二二二、一〇〇人ヲ減ズルコトヲ得ベシ。

次ニ各地方部中學校生徒數ニヨレバ東部地方ヨリ西部地方ニ赴クニ從ヒ漸次少數トナルハ一奇ナルガ如キモ高等學校ノ地方出身生徒數ハ東部地方(一、五六七人)中部地方(一、七二五人)西部地方中國部(一、七五一人)ノ如ク全ク之レト反對ノ狀況ニアルガ故ニ却ツテ其均勢ヲ保ツコトヲ得ベキナリ。

自然ノ地勢ト交通ノ狀態ニヨリテ各學校ヲ連絡セバ直線連鎖狀ヲナスモノト三角形ヲナスモノトニ分タル。

而シテ前者ニ比シ後者ハ學校相互ノ連絡ニ便ニシテ正三角形ニ近キ程相互ノ距離ヲ短縮ス。今仮リニ新設四校ヲナルベク三角頂點ニ近キ地方ニ求ムルトキハ自ラ全國學校ノ配置ハ体制ヲ整ヘ連絡地方部ヲナスニ至ルベク前表交通ニヨル連絡狀況欄ニ見ルガ如クニシテ各地方部間ニアリテハ各校互ニ長短相通ジ彼此相補フコトヲ得テ現在ニ於ケルガ如キ甚シキ不便ナシ。

三、第一地方増設ノ學區

高等學校増設ノ第一急務タルハ第一學區ナルノ理由ハ既ニ述ベタルトコロニヨリ明白ナルガ故ニ更メテ之レヲ言ハズ。今ハ即チ學校増設ヲ豫期シテ學區ヲ分轄シ二學區若クハ三學區トナサント欲セバ如何ナル配置ヲ最モ適當トスベキカヲ些細ニ考究スルノ要アリトス。

第一學區ニ屬スル地ヲ分割セント欲セバ隣接セル他學區トノ關係ヲモ考慮セザルベカラズ。且ツ一校増設ニ次ギテ更ラニ増設セラルベキ分區地方ヲモ豫メ研究シオカザルベカラズ。現ニ人口分配ノ關係ニヨリ新潟縣ハ之ヲ第四學區ニ屬セシメタレドモ元此地方ハ第一學區ニ附スベキヲ當然トスルガ故ニ若シ第一地方ニ一校増設ヲ見ルニ當ツテハ同縣ハ必然此學區中ニ加フベキモノトス。前掲ノ地圖ニ示スガ如ク第一地方ハ全國學區中最モ人口密度ノ大ナル地方ニシテ東京府ヲ中心トシ神奈川、埼玉、千葉ノ順位ニヨリテ一平方里二萬二千人乃至四千二百人ニ及ベドモ之レヨリ漸ク隔タルニ從ヒ次第ニ減少シテ茨城ノ三千三百人、群馬、新潟、山梨、長野ノ二千四百人乃至千六百人ニ至ル。故ニ現在ノ第一高等學校ヲ中心トセル分割學區ハ反對ニ面積

ノ小ナルベキハ當然ナリトス。之レヲ人口ノ總數ニ見ルニ第一學區ニ新潟縣ヲ加ヘタル總人口千三百八十萬人ニ對シ東京、神奈川、埼玉、千葉ノ一府三縣人口合計ハ六百六十三萬人ニシテ已ニ總人口ノ半數ニ相當スルヲ以テ殘餘ノ諸縣ハ茲ニ地勢上中心ヨリ西北部ニ屬スル群馬、山梨、長野、新潟ノ四縣人口合計四百九十九萬人ト東北部ニ屬スル茨城、栃木二縣人口合計二百廿九萬人トニ兩分セラレ一校増設ハ此兩者中何レヲ先ニスベキカノ比較問題ヲ生ズレドモ既ニ數ノ示スガ如ク輕重ハ自ラ明白ニシテ必然西北部ヲ一團トセル地方ニ設ケザルベカラズ。而シテ二校ノ略ボ均一ナル分配ハ東京ヲ中心トスル地方ヨリ埼玉縣ノ半部ヲ割キテ西北部ニ加ヘ茨城、栃木二縣ヲ合併シテ東西學區分立ヲナスニアリトス。換言セバ現在ノ第一高等學校ハ神奈川、東京、埼玉ノ一部千葉、茨城、栃木ノ一府五縣人口合計七百六十萬人ヲ包含セル一學區トナリ。新設A校ハ群馬、埼玉ノ一部山梨、長野、新潟ノ五縣人口六百二十萬人ヲ包容セル一學區トナスノ外他ニ適當ナル分割ノ考案ナキヲ信ズルモノナリ。且ツ此ノ區分ハ更ラニ一校増設ノ豫定ヲモ伴フモノニシテ第六表ニ見ルガ如ク新設C校ニ屬スベキ地方ハ第一高等學校ノ學區中茨城、千葉、栃木、埼玉ノ四縣人口合計四百九十五萬人ヲ割キテ新學區ヲ成シ。第一高等學校ハ殘餘ノ東京府及ビ神奈川縣ニ加フルニA校學區中ヨリ山梨縣ヲ以テシ一府二縣人口合計四百五十四萬人ノ一學區ヲ作り殘餘ノ群馬、長野、新潟三縣ハA校ニ屬スル一學區トシテ人口合計四百三十一萬人ヲ包容スルガ故ニIACノ三校恰モ鼎足形ヲナシ三分區人口殆ンド均一ニシテ理想ノ學區ハ茲ニ初メテ其配置ヲ得タルモノト云フベキナリ。

第三 新設高等學校ノ位置

一、交通上ヨリ見タル位置

新設學區中群馬、山梨ノ二縣ハ東方ニ偏シテ東京ニ迫リ南信地方ハ南ニ突出シテ名古屋ニ近ク下越地方モ亦遠ク北方ニ延長シテ學區ノ一方ニ偏在スルガ故ニ新設高等學校ノ位置ハ勢ヒ上越北信ノ地方ニ求メザルベカラズ。而シテ該地方ニ於ケル文化ノ中心タルベキ地ハ高田、長野ノ二市ニシテ松本市モ亦遠カラザルガ故ニ吾人ハ茲ニ以上ノ三市邑ニツキ各市ヲ基點トセル交通ノ狀況ヲ調査シ既定範圍ニ亙リテ最モ便宜ナル公平地點ヲ撰定セント欲スルモノナリ。

1、高田市——今高田市ヲ中心トシテ各交通路ニツキ百哩ヲ割セル地點ヲ調べ之ガ範圍ヲ窺フトキハ信越線ニヨリテ北スルモノハ一方村上線加治驛ニ達シ他方ハ岩越線白崎驛ニ及ビテ尙ホ新潟縣ノ小部ヲ殘セドモ西方直富線ニヨルモノハ富山縣下ヲ通過シテ金澤市ニ近キ石動驛ニ至ル而シテ南方ハ中央線ニヨリテ木曾谷ノ口ニ當ル奈良井驛ト諏訪湖口ノ岡谷驛ニ盡キテ伊那木曾地方ハ名古屋ニ屬スルニ便ニ山梨縣ハ著シク其距離ヲ増加シテ學區域ヨリ脱出ス。更ラニ東方信越線ニヨル者ハ碓氷嶺ヲ越エテ磯部ニ終リ群馬全縣殆んど山梨縣ト同一ナリ。之ヲ以テ本市ノ位置ハ群馬山梨ノ二縣及ビ信洲ノ南部ヲ逸シ却ツテ必要ナキ富山縣ヲ包含スルノ奇觀ヲ呈シ第一學區分割ノ主要眼目タル人口ノ分配ニヨル所屬府縣ノ目的ヲ達スルコト能ハズ。

2、松本市——松本市ヲ中心トセル同一ノ調査ニヨレバ北方ハ信越線直富線共ニ直江津驛ヨリ東西各十二哩ニ過ギザル碓石、柿崎ノ兩驛ニ終リ米山山脈以北ノ新潟縣下ハ到底之ガ範圍ニ入り難ク中央線ニヨリ東ニ入ルモノハ甲府市ヲ過ギテ遠ク猿橋驛ニ延ビ山梨縣下ノ包含ニハ最モ好適ナレドモ其南ニ走ルモノハ岐阜縣下ヲ通過シテ愛知縣高藏寺驛ニ達シ名古屋市ト招呼ノ間ニ迫ル。而シテ東方信越線ニヨルモノハ僅カニ飯塚驛ニ達スルノミニシテ前橋市以北高崎市以東ハ到底包含ノ望ミナシ。故ヲ以テ本市ノ位置ハ山梨縣ヲ合スルニハ便ナレドモ新潟縣ノ大部群馬ノ大半ヲ逸シ却ツテ岐阜縣ノ東部ヲ包擁シ是又府縣分合ノ目的ニ合致セザルノ地點ニアリトス。

3、長野市——長野市ヲ基點トセバ南中央線ニヨルモノハ長野、岐阜兩縣ノ國境ニ當ル坂下驛ニ盡キ。北直富線ニヨルモノ亦新潟、富山二縣ノ國境驛生池ニ終ルノミナラズ東北兩毛線ニヨルモノモ同ジク群馬、栃木ノ國境ナル小俣驛ニ達スベク何レモ自然及ビ人文ノ奇蹟的符合ヲ見ルベシ。唯山梨縣ニ入ルモノハ荏崎驛ニ盡キテ甲府市ニ達スル能ハズ縣下ノ大半ハ距離ノ延長ヲ加フレドモ既ニ述べタルガ如ク若シ學區ノ三分セラル、ニ當テハ本縣ハ當然東京ニ合スベキモノナルガ故ニ二分學區ニ對スル不便ハ當然之ヲ忍バザルベカラズ。而シテ北方信越線ニヨルモノハ帶織和納ノ二驛ニ限ラレ僅カニシテ新潟市ニ達シ難シ。然レドモ仙臺市ト長野市トノ中心地ハ福島縣下日出谷驛ト寶實驛トノ中間ニ當ルガ故ニ國境ト離モ尙ホ長野市ニ出ヅル方其距離遙カニ近シ。更ラニ東方信越線ニヨルモノハ高崎市ヲ過ギテ熊谷驛ニ達スルガ故ニ群馬縣及ビ埼玉縣ノ

一部モ亦包擁スルコトヲ得ベク本市ノ位置ハ第一地方分割ノ主要目的ニ適合セルモノト云フベキナリ。
 4、以上ノ概括——之ヲ要スルニ人口ノ均一ナル分配ヲ主トセル第一地方二分學區ハ新潟長野二縣ニ加フルニ群馬、埼玉ノ一部山梨ノ三縣ヲ以テセザレバ其目的ヲ達スル能ハザルガ故ニ今若シ高等學校ノ位置ヲ高田市ニ定メタリトセバ以上ノ三縣ハ全ク其範圍外ニ逸セザルベカラズ。若シ之ヲ松本市ニ設ケタリトセバ群馬、埼玉ノ二縣ハ到底包合ノ望ミナク下越一帶亦第二高等學校ニ赴クノ却ツテ利便多キニ至ルベシ。之レニ反シテ長野市ハ最モ學區ノ中心地點ニ在リテ所屬諸縣ヨリノ距離殆ンド相等シク且ツ學區ノ各方面ヨリスル鐵道各線ノ集合地點タルヲ以テ單ニ交通上ヨリ其位置ヲ論ズレバ高等學校ノ新設地ハ長野市ヲ措キテ他ニアラザルナリ。

二、氣象上ヨリ見タル位置

長野松本ノ兩市ニハ測候所アレドモ高田市ニハ之レ無キヲ以テ精密ニ三市ノ氣象ヲ比較研究センコトハ難シ然レドモ高田市ハ其位置戸隠山脈ノ背面ニアリ頸城ノ平野ヲ以テ日本海ニ臨ミ土地低キガ故ニ裏日本特有ノ海岸的氣象ヲ呈シ松本市ハ飛驒山脈ト木曾山脈トノ中間ニ位置シ松本平ヲ控ヘ海拔五百八十二米ナルヲ以テ山岳國ニ通有ナル高原的ノ氣象ヲ現ハス。然ルニ長野市ハ前二市ノ中間ニ位シ戸隠山脈ノ表面ニ在リ善光寺ノ平野其南東ニ開ケ海面上四百二十米ノ高サニ在ルガ故ニ其氣象ハ海陸兩様ノ影響ヲ受ケテ中間地帯ヲナシ二市ニ於ケルガ如ク著シキ變化ヲ見ズ。次ニ松本長野及ビ加茂新潟ノ四測候所ニツキ其氣象ヲ比較シテ參考ニ資セントス。

ニ資セントス。

第七表

大正四年度氣象

(掲記ノ數字ハ第三十五統計年鑑ニヨル)

測候所	海面上ノ高サ	氣壓平均	氣					水蒸氣ノ張力平均	濕度(%)平均	
			平年ノ平均	最高平均	最低平均	最高最低ノ平均較差				
						最高極	最低極			
長野縣	五八二・一	七一〇・七	一〇・七	一〇・〇	一六・九	五・七	一・二	三三・五	一九・七	七八
松本	四二〇・四	七二四・五	一一・六	一〇・八	一七・九	七・一	一〇・八	三六・三	一六・四	七九
野	一一・四	七五九・八	一一・八	一一・〇	一六・四	九・一	七・四	三六・三	八・二	七八
加茂	一一・四	七五九・八	一一・八	一一・〇	一六・四	九・一	七・四	三六・三	八・二	七八
新潟縣	二五・六	七五九・一	一三・〇	一一・六	一七・二	九・五	七・七	三九・一	九・七	七八

日	雲量(〇-10)平均	日照時(%)	降水量		風			天快晴	曇	降	暴風日
			總量	最大日量	平均速度	最大速度	平均方向				
一月	六・二	四九	一、一六七・二	五八九	北西	一八・七	三・五	四四	一一・九	一五〇	八三
二月	五・九	五三	八七三・四	一、〇〇三・五	北西	一七・二	二・六	三七	一〇・八	一七六	四五
三月	七・八	三七	二、一〇九・五	一九〇二・九	南西	二五・七	四・一	一四	二二・九	二四〇	九一
四月	七・五	三四	一、七二四・三	一、七九三・七	南西	三二・〇	五・四	一一	一九六	二二〇	一一六
五月	六・二	三三	一、一六七・二	一、一八一・三	北西	一八・七	三・五	四四	一一・九	一五〇	八三
六月	五・九	五三	八七三・四	一、〇〇三・五	北西	一七・二	二・六	三七	一〇・八	一七六	四五
七月	七・八	三七	二、一〇九・五	一九〇二・九	南西	二五・七	四・一	一四	二二・九	二四〇	九一
八月	七・五	三四	一、七二四・三	一、七九三・七	南西	三二・〇	五・四	一一	一九六	二二〇	一一六
九月	六・二	三三	一、一六七・二	一、一八一・三	北西	一八・七	三・五	四四	一一・九	一五〇	八三
十月	五・九	五三	八七三・四	一、〇〇三・五	北西	一七・二	二・六	三七	一〇・八	一七六	四五
十一月	七・八	三七	二、一〇九・五	一九〇二・九	南西	二五・七	四・一	一四	二二・九	二四〇	九一
十二月	七・五	三四	一、七二四・三	一、七九三・七	南西	三二・〇	五・四	一一	一九六	二二〇	一一六
年平均	六・二	四九	一、一六七・二	一、一八一・三	北西	一八・七	三・五	四四	一一・九	一五〇	八三

第八表 累年平均月氣象 平均氣溫

(揚肥ノ數ハ中央氣象廳ノ調査ニヨル)

測候所	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	年平均
松本	一・八	一・九	二・三	九・〇	一三・五	一八・二	二一・八	二二・二	一八・二	一一・六	五・七	〇・八	一〇・〇

氣溫毎日最高ノ平均

測候所	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	年平均
長野	一・四	一・六	二・七	九・七	一四・六	一八・九	二二・八	二二・九	一九・七	一一・九	六・六	一・〇	一〇・八
加茂	一・七	〇・八	三・七	一〇・一	一四・四	一八・四	二二・八	二二・一	一九・八	一一・六	九・〇	三・六	一〇・〇
新瀉	一・五	一・三	四・五	一〇・四	一五・〇	一九・三	二三・五	二二・五	二一・三	一五・一	九・四	四・一	一〇・六

氣溫毎日最低ノ平均

測候所	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	年平均
松本	三・四	三・六	八・一	一五・八	二〇・三	二四・〇	二七・一	二八・〇	二三・八	一七・九	一一・八	六・一	一五・八
長野	三・三	三・五	八・六	一六・五	二一・六	二五・〇	二八・五	三〇・〇	二五・二	一八・九	一一・七	六・一	一六・七
加茂	四・三	三・三	六・七	一三・九	一八・二	二二・〇	二六・四	二九・一	二三・七	一八・四	一一・三	六・二	一五・四
新瀉	四・三	四・四	八・六	一五・一	一九・八	二三・五	二七・四	二九・七	二三・七	一八・四	一一・四	七・四	一六・六

平均濕度

測候所	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	年平均
松本	六・九	七・一	三・一	三・〇	七・三	一三・五	一八・〇	一八・一	一四・一	七・〇	〇・五	四・〇	五・〇
長野	五・五	六・〇	二・〇	四・〇	八・七	一四・〇	一八・七	一九・六	一五・六	八・三	一・九	三・〇	六・二
加茂	〇・八	一・六	〇・八	五・八	一〇・二	一四・四	一九・三	二一・三	一六・三	一〇・八	五・五	一・〇	六・二
新瀉	一・二	一・七	一・〇	六・三	一〇・九	一五・八	二〇・三	二二・〇	一七・九	一一・五	六・〇	一・二	九・二

測候所	降水日數												
	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	年平均
松本	八一	七六	七四	七〇	七一	七七	八〇	八二	八三	八三	七七	七七	七八
長野	八三	七九	七四	六九	六九	七六	七八	七八	七九	七九	七九	八二	七七
加茂	七二	七二	七〇	六九	七三	八〇	八二	八三	七九	七五	七三	七四	七五
新潟	八三	八一	七六	七六	七六	八一	八三	八一	八一	七九	七九	八二	八〇

降水量

測候所	降水量												
	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	年計
松本	五三・九	三二・七	八六・七	九三・八	一一七・八	一五八・一	一五三・八	一一五・四	一六八・〇	一一九・九	三七・一	四二・一	一、一八・三
長野	五六・一	五〇・五	五四・〇	六八・二	八六・八	一〇五・五	一六七・四	九八・四	一三三・一	七七・五	五〇・三	五〇・〇	一、〇〇四・〇
加茂	一七一・五	一三三・〇	一一一・六	一〇一・三	一一六・七	一四二・〇	一一八・〇	一一六・九	一一九・〇	一八一・〇	二四四・三	二二八・三	一、九〇二・九
新潟	一九六・三	一一五・二	一〇四・六	一〇六・〇	九二・八	一一三・九	一五六・九	一一三・〇	一八六・六	一四六・三	一八二・五	二二二・五	一、七九三・五

1、氣温——氣温ハ松本市最モ低ク長野市之レニ次ギ、高田市ハ更ラニ高カルベク而シテ最高最低ノ差ハ全ク之レニ反ス。故ニ松本市ハ冬期極寒ニシテ氣温變化ノ差多キニ比シ長野市及ビ高田市ハ冬季ノ凌寒ニ困難ナラズ。而シテ高田市ノ夏季氣温ノ差少ク夜間モ尙ホ暑キニ比シ長野市及ビ松本市ハ夜間ニ寢苦シキ感ナシ。

2、濕度——松本市ハ冬季十一月ヨリ翌年三月ニ至ル五ヶ月ハ氣温寒キガ故ニ空氣ノ乾燥著シク四月ヨリ十月ニ至ル七ヶ月ハ濕氣ヲ含ムコト甚ダ多ク高田市ハ海ニ接スルト冬季ノ氣温高キトニヨリテ四時濕氣ヲ含ムコト多ケレドモ長野市ハ松本市ニ反シ冬季間ハ裏日本ノ影響ヲ受ケ濕度稍ヤ高ケレドモ夏季ハ三市中最も少キガ故ニ冬季呼吸器ヲ害スルコト少ク夏季蒸シ暑キ感少キ特點ヲ有ス。

3、雨雪量——松本市ハ冬季十一月ヨリ二月ニ至ル四ヶ月間ハ長野市ニ比シ稍ヤ少ケレドモ三月ヨリ十月ニ至ル八ヶ月間ハ常ニ多雨ニシテ曇雲相次ギ長野市ノ晴朗ナル比ニアラズ。然レドモ高田市ノ年中ヲ通ジ晴曇定マルコトナク更ラニ降雪雨ノ多キニ比スレバ殆ンド其半量ニ過ギザルベシ。長野市ハ三市中雨量最モ少ク降雪ハ多キモ尙ホ尺ニ達スルハ稀ニ松本市ノ最深一尺一寸五分ナリシニ比シ長野市ハ一尺九分ヲ數ヘタルノミ。之ニ反シ高田市ハ時ニ降雪丈餘ニ達スルコトアリ冬季四ヶ月ハ殆ンド封鎖ノ状態ニシテ交通杜絶歩行極メテ困難ナリ。日午尙ホ日光ニ浴スルコト稀ニ陰鬱ナル天候人ノ頭腦ヲ壓シ眞ニ學生研學ノ地ニアラズ。聞ク會テ十三師團ノ此地ニ置カレタル操業研學ノ不便ナルニ鑑ミ地ヲ相スルノ宜シカラザルヲ責ムルモノ今ニ多

シト蓋シ足ヲ此ノ地ニ容ル、者ノ等シク同感スベキ一理由ナリトス。

4、降雨日數——冬季間ハ松本市最モ少ク長野市之レニ次ギ夏季ハ長野市最モ少ク高田市之レニ次グ故ニ長野市ハ冬季雪中ノ運動ニ適シ夏季ハ郊外ノ動作ニ好適ナリ。

5、氣壓及ビ風——氣壓ノ平均ハ松本市最モ低ク北スルニ從ヒテ漸ク高シ。而シテ風ノ速度ハ之レト異ナリ長野市最モ低ク松本市及ビ北越地方ノ暴風多キニ比シ殆ンド烈風ナク殊ニ地勢ノ關係ニヨリテ會テ家屋ノ害セラレタルガ如キ風速ヲ見ズ。然ルニ高田市ハ北海岸ニ近ク其影響ヲ受クルコト多キガ故ニ風ノ速力ハ一層強烈ニシテ到底信洲ノ比スベクモアラズ。

6、以上ノ概括——氣象ノ適否ハ人ノ身心ニ至大ノ影響ヲ及ボスモノナルハ言ヲ俟タズ。高等學校ノ所在地ハ多數學生ノ住居シ勉學スル所ナレバ最モ學生ノ精神ヲ爽快ニシ活潑ナル運動ヲ行フニ適セル氣象ノ土地ナラザルベカラズ。然ルニ松本市ハ冬季寒威ノ強烈ニシテ乾燥セル寒風(土地ニテハ之ヲからつ風ト云フ)多キト夏季ニ降雨期長キトヲ缺點トシ高田市ハ冬季ノ風雪烈シク四時曇雨臻リ日光ニ浴スル日數少ク家屋ノ構造亦陰鬱ニシテ到底學生ノ書ヲ繕クニ適セズ。長野市ハ夏期中ノ氣溫稍ヤ高キノ憾ミアレドモ他ハ總ベテノ點ニ於テ遙カニ兩市ニ優レルヲ以テ氣象ノ上ヨリ學校新設ノ位置ヲ議スレバ必然長野市ヲ推スニ躊躇セザルナリ。

三、衛生上ヨリ見タル位置

衛生ニ關シ甲乙兩地ニ於ケル個々ノ原因ヲ比較シテ何レガ健康地ナルベキカヲ判定センコトハ極メテ至難ノ業ニシテ又恐ラクハ正鵠ヲ失スル無シト云ヒ得ザルベシ。然レドモ甲地若シ乙地ニ比シテ多數ノ不健康ナル事實ヲ生ゼルアリトセバ甲地ヨリ乙地ヲ健康地ナリト云フハ異論ナカルベシ。

1、疾患死亡——最近ノ統計年鑑ニ見ルニ新潟縣ノ人口ハ百八十七萬餘人長野縣ハ百四十四萬餘人ニシテ其比ハ一・二九ノ一・〇ニ於ケルガ如シ。而シテ兩縣ノ死亡者數ヲ之レニ對比スレバ次表ノ如クナルベシ。

第九表

(掲記ノ數ハ第三十五統計年鑑ニヨル)

區分	人口		疾病死亡者		老衰死亡者		自殺其他外因ニヨル死亡者		死亡者合計	
	總數	比	總數	比	總數	比	總數	比	總數	比
新潟縣	一、八七七、六〇〇	一一・九	三、七二二	一・三六	一、七三二	一・一〇	一、三三三	一・三三	四、〇〇五	一・三三
長野縣	一、四四八、六〇〇	一〇・〇	二、七四四	一・〇〇	一、四四六	一・〇〇	一、〇〇五	一・〇〇	二、九八九	一・〇〇

前表ニヨレバ長野縣ノ一・〇〇ニ對シ新潟縣ノ疾病死亡者ハ一・三六ニシテ人口比ヨリ多ク老衰死亡者ハ一・二〇ニシテ人口比ヨリ少シ故ヲ以テ新潟縣ハ疾病ニ罹リ死亡セル者ノ割合ハ長野縣ヨリ多數ナレドモ天壽ヲ全フシテ死セル者ハ少數ナリト云フベク死亡者ノ合計ニ於テモ亦長野縣ヨリ多シ。之ガ原因ノ如何ハ暫ク措クモ之ヲ以テ新潟縣ハ長野縣ニ比シテ健康地ニアラズト云フハ誤リナカルベシ。

2、壯丁ノ合格者——高等學校ノ位置ハ多數青年學生ノ生活スベキ所ナレバ各地ニ於ケル丁年前後ノ青年ニツキ其身体ニ現ル、健否ノ如何ヲ調べ地方ノ可否ヲ知ルハ極メテ緊要ナルヲ慮リ左ニ第十三師團軍醫部ノ調査ニヨル管下壯丁ノ検査成績ヲ掲グ。此調査ハ管下壯丁ノ總人員ヲ網羅シ統一アル方針ニヨリ検査セルモノナレバ其結果ハ大ニ考察ノ價值アルベキヲ信ズ。

第十表

年	聯隊區	區	城	度					
				明治四十五年	大正二年	大正三年	大正四年	大正五年	五ヶ年平均
新發田	新發田	新發田	新發田	七〇・二九	七〇・一八	七〇・七七	七三・〇五	七二・三七	七一・三三
				六二・九三	五九・九五	六〇・八六	六七・五二	七二・九〇	六四・八三
村松	村松	長岡市外七郡	村松	七四・一七	七二・四〇	七三・六〇	七四・七三	七四・三二	七三・八四
				七四・六七	七一・七二	七一・一七	七二・二九	七四・六六	七二・八八
高田	高田	高田市外四郡	高田	七四・六四	七一・八一	七二・〇六	七二・三五	七五・四〇	七三・二五
				六八・〇七	六四・四三	六七・一九	七一・四四	七二・六〇	六八・七五
松本	松本	松本市外九郡	松本	七四・六七	七一・七二	七一・一七	七二・二九	七四・六六	七二・八八
				六八・〇七	六四・四三	六七・一九	七一・四四	七二・六〇	六八・七五
新長	新長	新長	新長	六八・〇七	六四・四三	六七・一九	七一・四四	七二・六〇	六八・七五

(第十三師團軍醫部ノ調査ニヨル)

第十一表

大正五年徵兵體格百分比市別表

區	分	種					計	甲乙合格者ノ徵兵總員ニ對スル百分比
		第一乙種	第二乙種	丙種	丁種	戊種		
高田	高田	三二・四	一一・四	二〇・〇	二八・六	六・五	一〇〇	六三・七八
長野	長野	二九・八	一一・〇	三三・一	一九・七	四・八	一〇〇	七五・〇〇
松本	松本	二七・二	一八・七	二一・〇	二七・一	四・四	一〇〇	六六・八一

(第十三師團軍醫部ノ調査ニヨル)

第十表ニヨル合格者ノ五ヶ年平均ハ長野縣ハ七三・二五ニシテ新長縣ニ優リ松本聯隊區ハ長野縣ノ平均ヨリ下位ニアルヲ以テ合格者ノ最モ多キハ高田聯隊區中長野市附近ノ壯丁ナルコト明ナリ

第十一表ニ於ケル三市ノ比較ハ何等説明ノ要ナシ。唯斯カル成績ガ偶然ノ結果ナリト思惟スルハコト當ラザルベク其何ナルカハ知り難シトスルモ地方ニヨリテ健否ノ分ル、主因ノ存スルハ疑ナカルベシ。之ニ因リテ長野市附近ノ健康地帯タルハ否ムベカラザル事實ナリトス。

3、壯丁ノ疾病者——検査ノ結果戊種ニ屬スル壯丁ヲ疾病別トシ各地方毎ニ検査總人員ニ對スル百分比ヲ求ムレバ次ノ如ク前項ノ健康地帯ハ一層明白ニ窺ヒ知ルコトヲ得。

第十二表

(第十三師團軍醫部ノ調査ニヨル)

病名	縣別		聯隊區別		地方別		計	合	計
	新	長	新發田	高田	新發田	高田			
新發田	新發田	村松	高田	計	計	計	計	計	計
高田	高田	松本	計	計	計	計	計	計	計
松本	松本	計	計	計	計	計	計	計	計

兩	急	膿	ト	梅	扁	第	初	軟	淋	淋	慢	急	慢	急	慢	盲	盲	慢	肺
耳	性	漏	ラ	毒	平	二	期	下	毒	毒	性	性	性	性	性	腸	腸	性	尖
難	中	性	ホ	性	コ	期	疳	疳	性	性	性	性	性	性	胃	胃	胃	胃	胃
聽	耳	結	一	足	ン	梅	硬	横	結	副	淋	淋	淋	淋	圍	圍	圍	圍	圍
	炎	膜	ム	趾	ヂ	毒	結	疔	炎	丸	疾	疾	疾	疾	炎	炎	炎	炎	炎

	-			-		*										=	-	=	-
二	九	-	四		八	五	九	-	二		五	-							
														-	-				
二	〇	-	四	-	四	五	九	-	二		五	-	-	-	-	-	-	-	-
														-					
	-				三	四	二	二		二	五			-	-		-		-
三	五				三	四	二	二		二	五		-	-	-	-	-	-	-
二	二	-	四	-	三	八	七	-	-	三	三	〇	-	三	三	三	-	三	-

胸	胸	格	慢	神	早	躁	左	紫	癩	脚	其	骨	結	肺	粟	急	麻	腸	腸
膜	魯	魯	性	經	發	肺	肺	斑			他	盤	核	核	粒	性	刺	室	室
炎	布	布	腦	衰	痴	浸	潤	病			ノ	骨	性	結	結	利	後	後	扶
胎	性	性	膜	腸	弱	病	病	病			結	々	腹	核	核	ウ	ノ	ノ	扶
後	肺	肺	炎	炎	弱	病	病	病			核	瘍	膜	核	核	マ	衰	衰	斯
症	炎	炎	炎	炎	弱	病	病	病			氣	核	炎	核	核	チ	弱	弱	斯

	-		-	-		-			四				五		-				
二	二	-	三		-				二	五		-	七		二		-	-	-
	二				-							-	二						
二	五	-	-	四	-	二	-		二	九		-	-	四		-	二		-
														二					
	二	三	-		-		-	二	二	三			四	-	-		-		-
	二	三	-		-		-	二	二	三			四	-	-		-		-
二	七	四	-	五	-	三	-	-	四	二	三	-	-	〇	-	二	-	-	-

縣	地方別	右ニ對スル戊種百分比	被檢者總計	合計	切創	挫創	挫傷	脊推及脊推骨外傷	アヒリス腱病	腰筋レウマチス	關節炎	脊柱カリエス	包莖手術後ノ潰瘍	右前胸部腫瘍	癩瘡	皮膚下蜂窠織炎	濕疹
新潟縣	新潟市	〇・六一	五、〇九九	三													
	長岡市	一・四七	六、五四二	九六													
新潟縣	高田市	〇・二五	三、九二四	一〇													
	計	〇・八八	一五、五六五	一三七													
長野縣	長野市	〇・二五	二、四四七	六													
	松本市	〇・六六	六、九七二	四六													
長野縣	計	〇・五五	九、四一九	五二													
	合計	〇・七七	二四、九八四	一八九													

前表疾病者ノ百分比ハ新潟縣ハ長野縣ヨリ多ク就中最モ少キハ高田市附近及ビ長野市附近ナレドモ長野市ノ病類中ニハ外傷者ヲ含ムヲ以テ之ヲ除ケバ長野市附近ノ歩合遙カニ高田市附近ニ優ルニ至ル。而シテ長野高田ヲ中心トシテ南ニ進ミ北ニ向フニ從ヒ其數ヲ加フルハ表記ニ見ルガ如シ。

4、トラホーム及ビ花柳病——表記スレバ左ノ如シ。

第十三表

(第十三師團軍醫部ノ調査ニヨル)

區	隊	聯	區	分	トラホーム帶患人員	検査人員トノ千分比	花柳病帶患人員	検査人員トノ千分比
新	高	村	新	發	一、一五九	一四	一一〇	一四
野	本	田	松	田	一、七八〇	九	一〇七	一五
長	野	縣	縣	縣	三、〇九五	一〇	一九一	一七
合計	合計	合計	合計	合計	一、一五九	一四	一一〇	一四
平均	平均	平均	平均	平均	一、一五九	一四	一一〇	一四

第十四表

(第十三師團軍醫部ノ調査ニヨル)

區	分	五ヶ年間壯丁トラホーム患者百分比					五ヶ年間壯丁花柳病患者百分比				
		元	二	三	四	五	元	二	三	四	五
大正	平均	元	二	三	四	五	元	二	三	四	五
		平均	一五	三四	四四	一四七	一九一	二二四	二七八	三	一三

高野市	二〇・三〇〇	一四・六三三	一〇・七七七	九・一九九	四・四八八	一一・八七七	三・三三八	二・四四四	〇・五一一	二・七〇〇	〇・九九九	二・〇〇〇
長野市	二二・四四五	六・四四五	一一・九九九	七・七三三	二・九九九	一〇・九九九	一・五三三	〇・四三三	一・四七七	三・六一一	三・四二二	二・〇〇九
松本市	四・九九九	八・〇〇〇	二・三三〇	四・八三三	五・二二六	五・〇〇七	一・四九九	一・二二〇	三・二二三	四・三三三	一・七七七	二・四四一

第十三表ニ於テ新發田、村松兩聯隊區ノ二病共ニ甚シク多數ナルハ同地方ノ衛生思想ノ幼稚ナルヲ窺ヒ知ルベク高田、松本兩聯隊ニ少キハ喜ブベシ。而シテ新潟縣ハ終ニ長野縣ニ及ビ難シ。第十四表ニ於ケル三市ノ比較ニヨレバ高田市ハ虎眼最モ多クシテ花柳病少ク松本市ハ虎眼最モ少ク花柳病最モ多シ。而シテ長野市ハ其ノ中間ニアリ。

5、風土病及ビ流行病——傳染病ハ各地共著シキ流行ヲ見ズ。唯腸窒扶斯及ビ赤痢病ノ二病ハ年々發生シテ其跡ヲ絶タズト雖モ其害甚シキニ至ラザルハ次ノ三市比較表ニ見ルガ如シ。風土病ニ關スル狀況ハ第十三師團軍醫部ノ發表セル詳細ナル報告書ニヨリテ其實際ヲ知ルコトヲ得。

第十五表

區分	腸窒扶斯		赤痢		合計		人口ニ對スル百分比	附記
	患者數	死亡數	患者數	死亡數	患者數	死亡數		
高田市	五七	一五	—	—	五七	一五	一・八	大正四年度高田市統計表ニヨル
長野市	四二	—	—	—	四二	—	一・二	大正四年度長野縣衛生統計表ニヨル
松本市	—	—	—	—	—	—	—	—

大正五年度徵兵検査ニ於ケル地方病流行病ニ關スル狀況

第十三師團軍醫部

師管内ニ於ケル地方病ト見ルベキモノハ恙蟲病(信濃川、魚沼川、阿賀川、沿岸、佝僂病(佐渡郡殊ニ吉井村及加茂湖沿岸地方)肝臟及肺ヂストマ(西北中蒲原郡ノ一部地方)十二脂腸蟲病(新潟縣下一般)及ビ黃癬(日本海沿岸)等ナルハ既ニ熟知セラル、處ニシテ本年検査中佐渡郡百井村ニ於テ佝僂病疑似一名ヲ發見シ十二脂腸蟲病ハ新潟縣下殆ンド各地ニ蔓延シ壯丁中其ノ疑ハシキモノ尠カラズ殊ニ村松聯隊區管内ニ稍ヤ多キヲ認メタリ。黃癬ハ俗ニがめト稱シ日本海沿岸ニ多ク之ニ因スル禿髮病ハ村松聯隊區管内ニ稍ヤ多キヲ發見セルモ前年最多數(六十九名)ヲ見タル高田聯隊區管内ニ於テハ本年僅カニ十六名(西頸城郡八、中頸城郡六、東頸城郡下水内郡各一名)ニ減少セルヲ見タリ。其他流行病トシテハ麻刺利亞、腸窒扶斯、バラチフス、赤痢等各地ニ散發シ長野縣南佐久郡ニ於テハ發疹室扶斯ノ流行アリ大ニ警戒スル處アリシモ検査上何等ノ支障ヲ被ラザリキ。其他地方的ニ多キモノトシテ特筆スベキハ新發田聯隊區管内殊ニ佐渡郡、西蒲原郡ノ一部、新潟市ノ肺結核ナリトス、就中佐渡郡高千村ノ如キハ全村毎戸結核ニ犯サレサル者ナキ有様ニテ其蔓延ノ狀況實ニ慘憺タルモノアリ。又本年新發田聯隊區管内ニ於テ心臟辨膜病ノ比較的多キヲ見タルガ其原因中爭フベカラザルハ同聯隊

區管内ニ「レウマチス」疾患ノ比較的多キニ依ルナルベシ。

6、水及ヒ空氣——空氣ノ鮮否ハ之ヲ試驗セル成績ヲ有セザレドモ風ノ多ク土地ノ輕鬆ナルハ塵芥ノ混ズルコト多ク工場ノ多數散在セルハ煤煙ヲ含ムベキヲ推測スルニ難カラズ。而シテ長野市及ヒ高田市ハ商業地ナレドモ松本市ハ工業地トシテ近來長足ノ進歩ヲナシツ、アリ。

水道ハ長野市ノ外之レヲ有セズ從テ水質ハ之レニ優レル市ナシト雖モ松本市ハ局部ニヨリテハ水量豊富質亦不良ナルニアラズ。最モ劣レルハ高田市ナルベシ。

長野市水道ハ水質極メテ佳良ニシテ水質檢査ノ結果ニヨレバ「クロール」含有量一・〇九五細菌數平均七ニシテ其少キコト全國上水道中ノ第一位ヲ占ム。詳細ハ次表ニ見ルガ如シ。

第十六表

全國各地水道水質比較表

長野	東京	大坂	クロール			カマンガンサン加里脱色量			細菌數				
			最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均		
一〇・八一八	二・二一九	七・三〇〇	〇・八三〇	〇・八八八	一・〇九五	二・五二八	〇・七九〇	〇・九四八	一・六八六	二	〇	七	
〇・八三〇	〇・八八八	六・〇〇〇	一・〇九五	一・四九二	六・七六三	二・六三四	〇・七九〇	〇・七九〇	一・六八六	二・三六三	一七	一	三
一・五二五〇	一・三〇六	三・九〇〇	一・三〇六	三・八二六	五・六八八	二・二一〇	〇・七七〇	一・一五二	三・九五〇	八	八	四	
一・三〇六	三・八二六	四・二六〇	三・八二六	四・六二七	二・二一〇	二・二二二	〇・九四八	一・二一七	二・二一〇	二・二一〇	二・二一〇	二・二一〇	二・二一〇
四・六九三	四・四三三	四・六九三	四・四三三	四・六二七	一・〇〇六	一・〇〇六	〇・七六一	〇・八一八	一・二八八	〇・八一八	九	九	九
七・八一〇	五・八五七	四・六〇〇	七・〇〇八	七・八一〇	一・五八〇	一・五八〇	一・二六四	一・二八八	一・二八八	一・二八八	九	九	九
一・〇三〇〇	四・六〇〇	四・六〇〇	七・八一〇	七・八一〇	〇・八〇〇	〇・八〇〇	〇・三〇〇	〇・五八七	〇・五八七	〇・五八七	一四	一	一
三・八一三	二・四三四	三・八一三	三・八一三	三・八一三	一・七三三	一・七三三	〇・九三七	一・二三八	一・二三八	一・二三八	一四	一	一
一・七三三	一・三二九	一・七三三	一・三二九	一・四六四	四・四二四	四・四二四	一・八九六	二・九四七	二・九四七	二・九四七	七	一	一
一・三三三	〇・八五二	一・三三三	〇・八五二	六・六三七	一・一六九	一・一六九	〇・二二六	〇・四五三	〇・四五三	〇・四五三	五	一	一
八・八七五	四・七一一	八・八七五	四・七一一	六・〇〇一	一・四二二	一・四二二	〇・六五二	〇・九六七	〇・九六七	〇・九六七	二	一	一
五・八二一	三・八八九	五・八二一	三・八八九	四・九八三	二・五二八	二・五二八	〇・七九〇	一・二〇五	一・二〇五	一・二〇五	八	一	一
九・七三七	七・九七八	九・七三七	七・九七八	九・一五〇	二・七八二	二・七八二	〇・八八四	一・七六五	一・七六五	一・七六五	七	一	一
五・八五〇	五・四一一	五・八五〇	五・四一一	五・六五一	二・八一三	二・八一三	二・二三四	二・五一一	二・五一一	二・五一一	二	一	一
六・五八六	五・六五八	六・五八六	五・六五八	六・〇三〇	二・八二五	二・八二五	一・三七八	二・〇五六	二・〇五六	二・〇五六	三	一	一
一・七・四四〇	四・六九九	一・七・四四〇	四・六九九	一・〇・七五二	二・六八〇	二・六八〇	〇・七九〇	一・三六一	一・三六一	一・三六一	三	一	一
八・五二〇	五・二〇一	八・五二〇	五・二〇一	五・九三九	〇・六三五	〇・六三五	〇・五〇二	〇・五八二	〇・五八二	〇・五八二	八	一	一
七・四五四	三・八六七	七・四五四	三・八六七	五・三三一	一・三二九	一・三二九	〇・七九一	〇・九五五	〇・九五五	〇・九五五	一〇	一	一
八・八一五	七・〇九二	八・八一五	七・〇九二	七・八二四	一・二六四	一・二六四	〇・六三三	〇・七三七	〇・七三七	〇・七三七	五	一	一
四・二二五	二・八四〇	四・二二五	二・八四〇	三・八三四	〇・九四八	〇・九四八	〇・六三三	〇・七三七	〇・七三七	〇・七三七	三	一	一
五・〇五〇	三・〇〇〇	五・〇五〇	三・〇〇〇	三・九〇〇	一・六二五	一・六二五	〇・七五一	一・一七三	一・一七三	一・一七三	四	一	一

堺	横濱	神戸	京都	長崎	新潟	高崎	甲府	青森	岡崎	廣島	下關	小倉	門司	若松	函館	郡山	基隆	台北	京		
一・九〇〇〇	二・三〇〇〇	四・二六〇	四・六九三	七・八一〇	一・〇三〇〇	三・八一三	一・七三三	一・三三三	一・三三三	一・三三三	一・三三三	一・三三三	一・三三三	一・三三三	一・三三三	一・三三三	一・三三三	一・三三三	一・三三三	一・三三三	
一・一・五〇〇	〇・九五七	三・五五〇	四・四三三	五・八五七	四・六〇〇	二・四三四	一・三二九	〇・八五二	四・七一一	三・八八九	四・九八三	七・九七八	五・四一一	五・六五一	六・〇三〇	五・六五八	四・六九九	五・二〇一	八・五二〇	七・四五四	
一・五二五〇	一・三〇六	三・八二六	四・六二七	七・〇〇八	七・八一〇	三・八一三	一・四六四	一・一六九	六・〇〇一	四・九八三	九・一五〇	九・一五〇	五・四一一	五・六五一	六・〇三〇	五・六五八	四・六九九	五・二〇一	八・五二〇	七・四五四	
五・六八八	二・二一〇	二・二一〇	二・二一〇	一・五八〇	一・五八〇	一・七三三	四・四二四	一・一六九	一・四二二	二・五二八	二・七八二	二・七八二	二・八一三	二・二三四	二・六八〇	二・八二五	二・六九九	〇・六三五	〇・六三五	〇・六三五	
二・二二二	〇・七七〇	〇・九四八	〇・七六一	一・二六四	一・二六四	〇・九三七	一・八九六	〇・二二六	〇・六五二	〇・七九〇	〇・八八四	〇・八八四	二・二三四	二・二三四	一・三七八	二・〇五六	〇・七九〇	〇・五〇二	〇・五〇二	〇・五〇二	
三・九五〇	一・一五二	一・二一七	一・二一七	一・二八八	一・二八八	一・二三八	二・九四七	〇・四五三	〇・九六七	一・二〇五	一・七六五	一・七六五	二・五一一	二・五一一	一・三六一	二・〇五六	〇・九五五	〇・九五五	〇・九五五	〇・九五五	
八	二	二	二	九	九	九	七	五	二	八	七	七	二	二	三	三	八	八	八	八	
四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四

長野市水道水重要成分毎月検査表

大正五年	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	年平均
クロール	111.8	112.2	112.9	110.9	109.7	109.1	113.9	102.5	118.3	106.3	115.5	110.6	109.5
過マンガン酸加里脱色量	1.896	1.975	1.931	1.738	1.422	1.580	2.212	1.264	2.528	1.501	1.027	1.160	1.686
細菌數	11	9	4	7	7	7	3	6	6	15	4	5	7

(附記) 細菌検査八月三回ニシテ化學的検査八月二回ナリ。本表ノ濾過水ハ制水井及ビ高區、低區配水池

ヨリ採水シタルモノナリ。

各月記載ノ數ハ當月中ニ施行セル試験成績ノ和ヲ試験回数ヲ以テ除シタルモノナリ。全年ノ平均數ハ

各月ノモノヲ更ラニ平均シタルモノナリ。

7、以上ノ概括

衛生ニ關スル事項ヲ比較考察セル結果健康地トシテ長野縣ノ新潟縣ニ優レルハ爭フベカラズ。殊ニ長野市附近ハ最モ衛生上ノ好適地ナリトス。之ガ原因ハ種々アルベキガ土地ノ高燥ニシテ空氣ノ清淨ナル。氣温ノ變化少ク適度ノ濕氣ヲ含ミ雨雪曇天少キヲ以テ日光ニ浴スル日數多ク殊ニ水質ハ各地ノ比ニアラズ。一般ニ生物ノ發育良シキニ伴ヒ人ノ一般生活ニ適合セルモノナルベシ。

高等學校ハ將來有爲ノ青年ヲ教養スル所ニシテ其健康ニ深甚ノ注意ヲ要スルヤ論ヲ俟タズ。而シテ空氣ノ乾

燥甚シク寒風ノ強烈ナル所。呼吸器疾患ノ發シ易キ地或ハ積雪數月ニ亘リ眼病盲者等ノ多キ土地。陰濕又ハ水質不良ニシテ脚氣病等ニ犯サレ易キ場所。又ハ工場ノ市ヲ圍ムガ如キ地ハ心ズ之ヲ避ケザルベカラズ。斯ノ點ニ於テ吾人ハ長野市附近ノ適當ナルヲ推稱ス。

四、風教上ヨリ見タル位置

環境ノ良否ハ學生風尚ノ優劣ヲ分チ一校校風ノ消長ニ關スルアルハ世人ノ認ムル所。高等學校ノ學生ハ凡ソ二十歳前後ノ青年ニシテ品性陶冶ノ上ニ於テハ最後ノ教育ヲ受クル時代ナレバ土地ノ風俗人情ノ之ニ及ボス影響如何ハ最モ深甚ノ注意ヲ要スベキコトナリトス。

今信越二國ヲ比較シテ何レガ風俗純正ニシテ人情敦厚ナルベキカ。其趣味風尚ハ何レガ道德上健全ナル影響ヲ及ボスベキヤト言ハレ何人モ越後ノ風俗ガ信州ニ優レリト云フモノナカルベク。信人ノ剛毅質撲ニシテ其氣骨ノ稜々タルハ山紫水明ノ境ニ養ハレタル自然ノ賜ニシテ又先輩偉人ノ遺德ニ外ナラズ。彼ノ無味單調ナル平野ノ間ニ育セラレタルトハ自ら趣ヲ異ニスルアル蓋シ其因ナクンバアラザルナリ。

吾人ハ敢テ空論ヲ云々スルモノニアラズ。抽象セル事柄ニヨリテ徒ラニ他人ヲ強フルモノニアラザルガ故ニ茲ニ兩者ノ風俗人情ガ社會ノ活動ニ表現セル事實ヲ捕ヘテ其真相ヲ觀察セント欲スルモノナリ。

1、家庭ノ健否——風俗ノ淵源ハ家庭ノ健否ニ係リ家庭ノ道念ハ夫婦結合ノ如何ニ基ク。今之ヲ結婚及ビ離婚ノ統計ニ見ルニ新潟縣ハ結婚數甚ダ多ケレドモ、約二割ハ離婚ノ悲劇ニ終ルガ如ク之ヲ三市ノ比較ニ

徴スレバ長野市ハ其成績最モヨロシク松本市ハ之ニ次ギ高田市最モ不健全ノ状態ニアリ。
(第三十五統計年監ニヨル)

縣市別	結婚數	離婚數	人口千ニ付		結婚百ニ對スル離婚
			結婚	離婚	
新瀨縣	一七四一〇	三、四一四	九、三三九	一、八四四	一九、六一
長野縣	一一、四九二	一、三六六	八、〇〇四	〇、九六六	一一、八八
高田市	三六四	五二	一一、五二二	一、六五	一四、二九
長野市	三四一	三八	九、一三	〇、九九	一一、二四
松本市	三七八	四六	九、一七	一一、二	一一、二七

(大正四年長野縣衛生統計書及ヒ高田市統計書大正四年度ニヨル)

之ニ依テ見レバ新瀨縣人ハ長野縣人ニ比シ結婚ヲ輕視スルノ傾キアリテ相互人格ニ對スル觀念ハ甚ダ薄弱ナルニハアラザルカ。

2、男女ノ節操——家庭ノ不健全ナルハ其因多カルベキモ男女ノ節操ノ缺陷ハ往々ニシテ悲惨ノ事實ヲ生ジ精神上又ハ身体上子孫ニ及ボス害毒モ亦尠カラズ之ヲ出産兒ノ身分別ニ見ルニ左ノ如シ。

第十九表

(前表ト全シ)

縣市別	生		死		計		出產百中	
	公生子	私生子	公生子	私生子	公生子	私生子	公生子	私生子
新瀨縣	六三、三七九	三、五七四	不	明	不	明	九四、六六	五、三四
長野縣	四四、九五二	二、〇三八	不	明	不	明	九五、六六	四、三四
高田市	一一、二一五	七〇	四九	一一	一一、二六四	八一	九三、四九	六、五一
長野市	一一、〇〇五	五九	五九	一六	一一、二六四	七五	九四、四〇	五、六〇
松本市	一〇、八三三	一一二	六七	三八	一一、一五〇	一五九	八七、八五	一一、二五

(附記) 公生子中ニハ嫡出子ト庶子トヲ含メドモ松本市ノ庶子數不明ナリシ爲メ他市モ一樣ニ記載セリ。嫡出子ハ正當ノ夫婦間ニ生シタルモノ庶子ハ多ク内縁ノ夫婦若クハ蓄妾ノ結果ト見ルベク。私生子ニ至リテハ多ク私通又ハ賣淫等ノ事實アルヲ窺フコトヲ得ベシ。而シテ前表ニヨリテ之ヲ二縣三市ノ狀況ニ照合セバ男女節操ノ如何ハ自ラ明白ナルベシ。

3、花柳界ト風儀——前節衛生ニ關スル項ニ於テ花柳病者ニツキ各地ノ比較ヲ示シタレドモ之ガ多少ハ同時ニ其地方風俗ノ一端ヲ窺フ資料タルベシ。而シテ第十三師團ノ調査ニナレル該病傳染ノ經路ニ見ルトキハ男女ノ醜關係ハ娼妓最モ多ク村娘工女之ニ次ギ酌婦ノ姦通又尠カラズ。然レドモ此割合ハ村落ノ壯丁多數ナルノ結果ナルベク都會ノ風儀ハ寧ロ藝妓又ハ酌婦ニヨリテ破壞セラル、モノ多ク工業地ハ工女ノ爲メニ風俗ヲ害スルコト尠カラズ。而シテ料理屋飲食店等亦之ガ媒介場タルモノ甚ダ多シ。

壯丁花柳病感染經路調査表

(第十三師團司令部ノ調査ニヨル)

病名	聯隊區		計	軟下疳	梅毒	病	其他	計	總計
	高村田	高村松							
娼妓	四〇	二六	六六	二	二二	二	一	七〇	一七〇
藝妓	二	一	三	一	四	一	一	七	二二
酌婦	一	一	二	一	一	一	一	五	二二
下女	一	一	二	一	一	一	一	五	二二
妻	一	一	二	一	一	一	一	五	二二
其他	一	一	二	一	一	一	一	五	二二
計	四四	三〇	七四	五	二八	五	五	一〇〇	二〇〇
總計	四八	三二	八〇	七	三〇	七	七	一〇〇	二〇〇

第二十一表

市別	料理屋數	戸數千ニ對スル同上ノ比	藝妓數	人口千ニ對スル同上ノ比	貸座敷數	戸數千ニ對スル同上ノ比	娼妓數	人口千ニ對スル同上ノ比
高田市	一一九	一一三	七四	二二四	二二	四一四	一四八	四六八
長野市	一〇九	一四・五四	一五四	三八二	三二	四二七	二四五	六〇八
松本市	一七三	二二・一四	二〇三	四・九二	二〇	二四四	一〇五	二五五

(附記) 松本市ノ貸座敷及ビ娼妓ハ本郷村ニシテ藝妓數中ニハ淺間ヲ含マズ。

前表ハ飲食店及ビ酌婦數並ビニ工女數等不明ナルガ故ニ詳細ニ各地風俗ノ如何ヲ判斷シ難シト雖モ亦以テ一面ノ參考トナスニ足ラン。

4、出稼ト娼妓——越後ハ出稼者ヲ出スコトニ於テ全國ニ知ラル。殊ニ娼妓出稼ノ多數ナルハ驚クベキ事實ナリトス。聞ク所ニヨレバ無知ノ賤民ハ其子女ヲ一度娼妓タラシムルハ却テ良縁ヲ得ルニ便ナリト稱シ視トシテ恥ズル所ナシト。物質ニ支配サル、ノ極最愛ナルベキ子女ノ貞操ヲ鬻ギテ怪マザルノ民情之レ寧ロ人道上一ノ問題ニアラズヤ。吾人ハ眞ニ新潟縣人ノ爲メニ惜ミテ止マザルモノナリ。

5、貧富ノ懸隔——貧富ノ差甚シキ時ハ利益ハ富者ノ壟斷スル所トナリ兩者ノ生活程度ノ差著シク異ナリテ貧者ハ常ニ其驅使ニ甘ンゼザルベカラザルガ故ニ社會ハ自ラ階級的ナルヲ免ル、能ハズ。爲メニ不識ノ間奴隸的精神ヲ馴致シ意氣地無キ賤民ノ多クハ所謂下層ノ風俗慣習ヲナシテ怪ムナキニ至ル。之レヲ兩縣ノ狀況ニ見ルニ長野縣ハ新潟縣ニ比シ富ノ分配ヨロシク巨萬ノ富豪少キモ極貧ナル細民ナク其生活ハ比較的安穩ナルガ故ニ其風俗亦自ラ氣品ノ高キモノアルヲ見ル。

第二十二表

納税人員	新 潟 縣		長 野 縣		新 潟 縣		長 野 縣	
	納税人員	納税人員	納税人員	納税人員	納税人員	納税人員	納税人員	
千圓以下	二六八三七	二七、五七九	三萬圓以下	四、五〇三	二五	二五	二五	
二千圓以下	五、五三八	九、六八	五萬圓以下	七、〇〇〇	一〇	一〇	一〇	
三千圓以下	一、三四四	九、六八	七萬圓以下	一〇	一〇	一〇	一〇	
五千圓以下	九六三	五、二二三	十萬圓以下	一〇	一〇	一〇	一〇	
七千圓以下	三二二	一、六〇	十萬圓以上	一〇	一〇	一〇	一〇	
一萬圓以下	一七〇	六	合計	三、三九三	三、三九三	三、三九三	三、三九三	
一萬五千圓以下	一一六	四六	人口百人ニ對スル納税人員	一、八九	一、八九	一、八九	一、八九	
二萬圓以下	四二	五	納税者一人平均納税額	二七、二八	二七、二八	二七、二八	二七、二八	

(第三十五統計年鑑ニヨル)

6、教育ノ程度——家庭ノ健實ナラズ社會ノ道德率低キ一原因トシテ一般教育ノ度如何ヲ考察セザルベカラズ。之ヲ尋常小學校卒業者ノ高等小學校ニ進ム者ノ歩合ニ見ルトキハ左ノ如シ。

第二十三表

區 分	前年度尋常六學年兒童數		高等一學年兒童數		前者ノ後者ニ對スル百分比	
	男	女	男	女	男	女
新 潟 縣	二〇、四三六	一八、二八四	八、三七三	二、八〇〇	四〇、九七	一五、三二
長 野 縣	一五、六八五	一三、五八三	八、八〇五	三、五六〇	五六、一四	二六、二二
計	三六、一二一	三一、〇六八	一六、一七八	六、三六〇	四八、一七	二〇、八六

(大正四年度長野縣新潟縣學事統計ニヨル)

殊ニ女子ノ高等小學校ニ入ル者少キハ家庭ノ進歩セザル一理由タルベク亦婦徳ノ低キ原因タルベシ。更ラニ第十三師團ニ於ケル壯丁學力検査ノ成績ニヨレバ左ノ如キ相違アルヲ見ル。

第二十四表

(第十三師團司令部ノ調査ニヨル)

區 分	大學卒業及高等學校卒業及同等者		中等學校卒業及同等者		高等小學校尋常小學校卒業及同等者		以上ノ計		稍讀書算術ヲ得ル者知ラザル者ノ比
	男	女	男	女	男	女	男	女	
新 潟 縣	三	三	四三	四三	三三六	五三三	九三〇	五九	一五
長 野 縣	三	三	四三	四三	二五八	四四一	八五八	一一三	一五
計	六	六	八六	八六	五九四	九七四	一、七八八	一六六	一五

高等小學校卒業以上ノ者ハ長野縣常ニ新潟縣ヨリ多ク尋常小學校卒業以下ノ者ハ新潟縣却テ長野縣ヨリ多シ之ヲ以テ二縣ノ趣味風尙自ラ異ル所以ヲ知ルニ足ラン。

7、社會ノ健否——以上ハ風教良否ノ分ル、原因トナルベキ事項ヲ列舉セルモノナレドモ更ラニ社會ノ表面ニ現ハレタル不健全ナル事實ニ徴スレバ寧ロ戰慄スベキ結果ヲ齎スモノナルヲ知り得ベシ。之ヲ第十三

師團ノ調査セル壯丁ノ徵集スルヲ得ザル事故ニ付テ見バ。

第二十五表

縣區及縣別	事故別						計	壯丁人員ニ對スル千分比
	逃亡、失踪、所在不明又ハ犯罪者ノハ裁判未決ノ爲メ徵收ヲ延期シタル者	處刑セラレタル爲メ兵役ニ許サザル者	故ナク徵兵檢査ニ出頭セザル爲メ徵集ヲ延期シタル者	家族自活シ能ハザルガ爲メ徵集ヲ延期シタル者	疾病其他ノ事ヲ延期シタル者	計		
新發田	二四六	四	八九	六	七一	四一六	六一・一	
村松	一六九	四	七	一三	一三四	三二七	四一・二	
高田	一三〇	四	四	五	二〇	一六三	三四・九	
松本	八九	三	〇	一	六	九八	三四・六	
長野	二九九	三	〇	九	三九	三五〇	四一・〇	
新潟	五四五	一一	一〇〇	二四	二二五	九〇六	四六・七	
長野	三八七	六	〇	一	四五	四四五	三九・四	

8、以上ノ概括——風教上ニツキ兩縣及三市ヲ比較シ終リテ冷靜ニ各地ノ狀況ヲ顧ミ青年學生ノ教育地トシテ之ガ適否ヲ考究セバ他ニ如何ナル利便アリトスルモ風俗ノ上ニ於テハ必ず其位置ヲ長野縣ニ求メザルベカラズ。就中長野市附近ノ狀況ハ一般ニ最モ佳良ナルハ既述ニヨリテ明ナリ。

五、教育上ヨリ見タル位置

今高等學校ノ設置ニツキ新潟長野二縣ヲ比較シ之ガ教育上ニ於ケル位置ヲ定メント欲セバ先ヅ兩縣ガ教育ニ對スル熱心ノ度ヲ調査シ一般教育ノ水平線ハ何レガ高ク何レガ低キカヲ覗ヒ而シテ中學卒業生ノ上級學校ニ進マント欲スル傾向ノ強弱ヲ知り直接ニハ高等學校入學者ノ多少ト間接ニハ高等教育ヲ受クル者ノ全數トヲ比較シテ始メテ適切ナル結論ニ達スベキモノナリトス。

1、高等教育ヲ受クル學生

——新潟縣ニハ醫學專門學校ヲ有シ長野縣ニハ蠶糸專門學校ノ存スル外既設高等學校及ビ專門學校ノ位置ニ對シテハ二縣共ニ其距離遠ク全國學區中最モ入學ニ不便ナル地方ニシテ新潟縣下ノ金澤、仙臺ニ對スルト長野縣下ノ東京、名古屋ニ對スルト其狀況殆ンド相等シク從テ兩縣ニ於ケル中學校以上ノ官公立學校ニ進ム者ノ數ハ全國各府縣ニ比シ決シテ多シト云フベカラザレドモ二縣ノ間ニテハ自ラ其數ヲ異ニシ新潟ハ全國平均以下ニシテ長野縣ハ平均以上ニアルヲ見ル以テ其向學心ノ如何ヲ窺フコトヲ得ベシ。

第二十六表

直轄學校生徒數

區分	帝國大學		高等學校		專門學校		合計	
	學生數	人口一萬ニ對スル比	生徒數	人口一萬ニ對スル比	生徒數	人口一萬ニ對スル比	生徒數	人口一萬ニ對スル比
新潟縣	二五九	一五・一	一八九	一〇・九	四八三	二二・三	九三二	四〇・五

(文部省第四十三年報ニヨル)

長野縣	二二六	一五九	一四三	〇九六	四二二	二八四	八〇二	五二
全 國	八〇五四	一五一	六二〇	一・一六	一四〇三八	二六三	二八・二九三	五・四

長野縣ハ高等學校生徒數全國平均以下ニアレドモ帝國大學學生數ノ全國平均以上ニアルヲ見バ其向學心ハ他ニ比シテ甚シク劣レリトハ云フベカラズ。而シテ新潟縣ハ各學校共ニ全國平均以下ニアリテ何レモ長野縣ニ超ユルコト能ハザルハ次表中學卒業生ノ上級學校ニ進ムモノ、數ニ於テ其然ル所以ヲ確ムルコトヲ得ベシ。

第二十七表

(大正四年度二縣學事統計書ニヨル)

中學卒業生ノ上級學校ニ進ム狀況

區 分	前學年		高等學		專門學		實業專門		陸軍士官		陸軍主計		海軍諸學		其他ノ學		合 計	卒業生ノ百人中トナリシ者
	卒業生	校生徒	校生徒	校生徒	校生徒	校生徒	校生徒	校生徒	校生徒	校生徒	校生徒	校生徒	校生徒	校生徒	校生徒	校生徒		
長 野 縣	四九五	二〇	一〇五	四五	五	一	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一七八	三五・九六
新 潟 縣	五四九	一七	九一	三七	四	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一六二	二九・五一

卒業生百人ニ對スル比ニヨリテ兩縣ノ實數差六人以上ナルヲ見ル。蓋シ私立同程度ノ學校入學者ヲ加算セバ益其差ノ大ナルベキモ統計上明ナラザルヲ以テ茲ニ言ハズ。

2、中等學校ノ狀況——兩縣中等學校ノ狀況ヲ比較スレバ左ノ如シ。

第二十八表

(文部省第四十三年報ニヨル)

中學校ノ狀況 (二縣人口ノ比ハ長野縣ノ一ニ對シ新潟縣一・三ナリ)

區 分	校 數	生 徒 數	入 學 志 願 者	入 學 者	卒 業 者	入 學 志 願 者 百 人 中 付 入 學 者	經 費
長 野 縣	八	三、五二五	一、六三三	八六八	五三八	五三・二五	一四〇、六一六
新 潟 縣	一一	四、一〇四	一、七三八	一、〇二五	五八一	五八・九八	二一四、三六二
二 縣 之 比	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇
新 潟 縣 比	一・五〇	一・一七	一・〇六	一・二八	一・〇八	一・一一	一・五三

長野縣ヲ一トシテ之ニ對スル新潟縣ノ比ヲ求ムレバ其人口ハ一・三ナリ。而シテ中學校ノ數及ビ其經費ハ何レモ一・五ニシテ設備ノ堂々タルニ於テ新潟縣ハ遙カニ長野縣ノ上ニアリ。然レドモ其生徒數ハ一・一七ナルニ過ギズシテ極メテ餘裕ノ多キ感アリ。果セルカナ其入學志願者ノ數ニ於テハ長野縣ト殆ンド相等シク入學者ノ歩合ハ五八・九八ナルガ故ニ其入學者實數ノ差ハ百五十七人ナレドモ卒業生ニ至リテハ新潟縣僅カニ四十三人ノ多キヲ見ルノミ。中等教育ニ關スル縣ノ方針ト民心ノ趨向トニ於テ本表暗示スル所ノ意義何ゾソレ兩縣隔絶ノ甚シキモノアルヲ知リ得ルニアラズヤ。

次ニ中等程度ノ諸學校ヲ總括シテ兩縣入學志願者ノ狀況ヲ調べ向學心ノ如何ヲ窺ヒ知ラント欲ス。

第二十九表

尋常小學校六學年以上ノ兒童ト中等程度學校入學志願者狀況

(大正四年度二縣學事統計書ニヨル)

區分	尋常科		高等科		高等科		高等科		計		上級學校入學志願者		尋常科六學年以上ノ者自 人中七級學校入學志願者	
	六學年	一學年	二學年	三學年	計	中學 高等女學校	實業學校 實科高等女學校	中學 高等女學校及實業學校	實業學校	計	尋常科 高等女學校	實業學校	計	尋常科 高等女學校
長野縣	女	一五、六八五	八、二七八	五、八七五	二、二	二九、八五九	一、七〇九	二、〇五二	五、七三	六、八七	一、七〇九	二、〇五二	五、七三	六、八七
	男	一三、五八三	三、三七七	二、三五三	五	一九、三二八	七六二	七五〇	七、七八	七、七八	七六二	七五〇	七、七八	七、七八
新潟縣	女	二〇、四三六	七、八六九	五、一〇一	四九七	三三、九〇三	一、七四一	一、七四一	一、七四一	一、七四一	一、七四一	一、七四一	一、七四一	一、七四一
	男	一八、二八四	二、四四七	一、六二二	一六八	二二、五一一	七一一	二八一	二八一	二八一	七一一	二八一	二八一	二八一

(附記) 本調査ニハ師範學校附屬小學校ニ係ルモノヲモ含ム

中等程度ノ學校ニ進ムベキ尋常科六學年以上ノ小學校生徒數ニ對シ中學校及ビ實業學校ノ入學志願者ノ歩合ハ長野縣ノ新潟縣ニ比シ多數ナルノミナラズ女子ノ高等女學校若クハ實科女學校ニ入學セントスル者ノ數新潟縣ノ著シク少數ナルノ事實ハ兩縣教育ノ根底ニ於テ既ニ分ル、所アルコト明白ナリ。

3、小學校ノ狀況——義務教育時限ニ於ケル學齡兒童及ビ其就學出席等ニ關スル事實ハ各府縣殆ンド大差ナキ狀況ニアリテ特ニ兩縣ヲ比較スルノ要ナシ。唯二縣ノ異ル所ハ尋常小學校ニ於テ授業料ヲ徵收スルモノ長野縣ニハ一校モ存ゼザルニ比シ新潟縣ハ十四校兒童數一萬四千四百四十九人ニ上レルノ事實ナリトス。之レ新潟縣下ノ市町村ガ著シク財政上困難ナル狀況ニアルニ因ルカ然ラザレバ富者階級ノ專横ニ依ルカ吾人ハ其原因ノ何タルカヲ問ハズ此事實ヲ以テ二縣民ノ教育ヲ觀ル輕重如何ヲ知ルベキ尺度トナサント欲ス。而

シテ高等小學校ニ至リテハ兩縣ノ差著シク異リ之ヲ學級及ビ兒童數ニ見ルモ或ハ入學者ノ歩合ニ見ルモ新潟縣ハ終ニ長野縣ニ及バザルコト遠キニ在ルハ前掲第二十三表及ビ次表ニ示スガ如シ。更ラニ小學校教員及ビ其俸給ノ狀況ニヨレバ學級ニ對スル本科正教員ノ數ハ新潟縣ハ長野縣ノ上ニアリト雖モ其待遇ニ至リテハ准代用教員ノ女子ニ於テノミ僅カニ長野縣以上ニアルノ外他ノ教員ハ其平均額悉ク長野縣ニ劣レルヲ見ル。以テ小學校教員ノ社會的地位ト縣民ノ教師ニ對スル尊重ノ度ヲ窺ヒ知ルヲ得ベシ。但シ女子ノ准代用教員ニ於テ平均月俸ノ多キハ一般ニ女子ノ教育アル者比較的少キニヨルニアラザルカ。詳細ハ次ニ掲グル數表ニツキ示ス所ノ如シ。

第三十表

(大正四年度二縣學事統計書ニヨル)

市町村立小學校ノ狀況

區分	市町村立小學校數		同上學校數		兒童數		本科正教員		學級百ニ對スル本科正教員		一學級ニ對スル兒童數	
	尋常	高等	尋常	高等	尋常	高等	尋常	高等	尋常	高等	尋常	高等
長野縣	四五二	三九二六	四、六七九	五六一	一八、八七二〇	二、一五一	二、六二七	五六一	六六、九一	一〇、〇〇〇	四八、〇〇七	三八、三四
	八、九四	四、六七九	四、六七九	四九六	二、五、三三〇	一八、九三五	三、九二一	五二一	八三、七八	一〇、五〇四	五三、六九	三八、一八
新潟縣	四五二	三九二六	四、六七九	五六一	一八、八七二〇	二、一五一	二、六二七	五六一	六六、九一	一〇、〇〇〇	四八、〇〇七	三八、三四
	八、九四	四、六七九	四、六七九	四九六	二、五、三三〇	一八、九三五	三、九二一	五二一	八三、七八	一〇、五〇四	五三、六九	三八、一八

第三十一表

尋常小學校ノ教科ヲ卒リタル者ノ高等小學校ニ進ム狀況

(前出再掲)

區分	前年度尋常科六學年兒童		高等科一學年兒童		進級ノ歩	
	男	女	男	女	男	女
長野縣	一五、六八五	一三、五八三	八、八〇五	三、五六〇	五六、一四	二六、二二
新潟縣	二〇、四三六	一八、二八四	八、三七三	二、八〇〇	四〇、九七	一五、三三
計	三六、一二一	三一、八六七	一七、一七八	五、五六〇	九七、一四一	四一、五五

第三十二表

市町村立小學校教員俸給支給狀況

區分	本科正教員人員	平均月俸	專科正教員人員	平均月俸	准教員人員	平均月俸	代用教員人員	平均月俸
新潟縣	一、一〇〇	一、四三三	一〇四	一〇、七九八	一七七	一〇、八四七	三〇四	九、七七〇
計	三、七二四	三、一〇六	二一五	一、七五五〇	八七八	一〇、八七四	一、〇二五	一、三三二

第三十三表

授業料ヲ徴收スル市町村立高等小學校

區分	分學校	授業料定額		授業料一部免除ノ者		計	授業料月額平均
		納ムル者	ノ者	納ムル者	ノ者		
長野縣	X 二八三	一、一七	九四	四三	一、一七	〇、〇〇〇	
新潟縣	X 二七三	一、八八一	二〇	四三	一、八八一	〇、一四九	
計	X 五五六	三、〇四八	一一四	八七	三、〇四八	〇、一四九	

(前表ニ同シ)

區分	分學校	授業料定額		授業料一部免除ノ者		計	授業料月額平均
		納ムル者	ノ者	納ムル者	ノ者		
長野縣	X 二八三	一、一七	九四	四三	一、一七	〇、〇〇〇	
新潟縣	X 二七三	一、八八一	二〇	四三	一、八八一	〇、一四九	
計	X 五五六	三、〇四八	一一四	八七	三、〇四八	〇、一四九	

(附記) 表中X印ハ尋常高等小學校ニ係ハルモノナリ、次表亦同シ。

第三十四表

授業料ヲ徴收スル市町村立尋常小學校

區分	分學校	授業料定額		授業料一部免除ノ者		計	授業料月額平均
		納ムル者	ノ者	納ムル者	ノ者		
長野縣	X 一〇	七、七三六	一、八七四	六	九、六一〇	〇、一四九	
新潟縣	X 四	三、四七七	八五一	一三九	四、四一六	〇、一三六	
計	X 一四	一一、二一三	二、七二五	一四〇	一三、九三八	〇、一四二	

(前表ニ同シ)

4、教育費ノ多少——縣下全般ノ教育事業ニ費ス所ノ總額ニ於テハ長野縣ノ新潟縣ニ超ユルコト約十萬圓ニシテ戸數一戸當リ亦二圓餘ノ支出ヲナシツ、アリ。而シテ其縣ノ負擔ニ屬スル公學費ハ其實額ニ於テ新潟縣ノ長野縣以上ナルノミナラズ戸數人口一ニ對スル割合モ亦同一ナレドモ郡及市町村ノ公學費ニ至リテハ新潟縣ハ到底長野縣ニ及ビ難ク人口及ビ學校數兒童數共ニ遙カニ長野縣以上ナルニ反シ市町村ノ公學費ハ實

額ニ於テ既ニ長野縣ノ下ニアリ從テ一戸又ハ一人ノ負擔スベキ額モ亦著シク少シ此現象モ亦富者ニノミ都合ヨキ一例ト見ルヲ得ベク教育ノ源泉タルベキ國民初等教育ニ對シテハ資ヲ投ズルコト極メテ薄ク獨リ中等以上ノ學校ノミ頗ル莊麗ナルガ如キ以テ前節風教上ニ關シ記述セル事項ト符合スル所アルヲ知り得ベキナリ。

第三十五表

縣郡市町村公學費		總額	戶數一戸ニ對スル割合	人口一人ニ對スル割合
長野縣		二,七七七,五六六	一〇・六五六	一・八二二
新潟縣		二,六八三,一八八	八・五八一	一・三七八

(文部省四十三年報ニヨル)

第三十六表

區分	縣負擔公學費					
	師範學校費	中學校費	甲種實業高等女學校費	圖書館費	學校費以外ノ公學費	合計
長野縣	九一,二〇七	一四〇,六一六	四一,六七二	—	八六,八五六	四二二,六〇六
新潟縣	一一一,四八一	二二四,二六二	八三,〇八八	五九,九四七	一一七,三三六	六四七,五六九
合計						一,〇六七
合計						〇・二七七
對スル割合						〇・三三三

第三十七表

區分	郡負擔公學費					
	乙種實業高等女學校費	實科高等實業補習女學校費	圖書館費	其他	合計	戶數一戸ニ對スル割合
長野縣	六七,八六九	—	—	三九,八七三	一〇七,七四二	〇・四一三
新潟縣	九四,二九五	一七,〇〇八	一五二	八,一七七	一一二,四六六	〇・三九四
合計					二二〇,二〇八	〇・八〇七
對スル割合						〇・〇六三

(前表ニ同シ)

第三十八表

區分	市町村負擔公學費					
	甲種實業學校費	乙種實業學校費	高等女學校費	實業補習各種學校費	幼稚園圖書館費	其他
長野縣	一,八九八,四七七	九四六〇	六五,〇八〇	一八,八七三	六六,四〇五	四七三
新潟縣	一,八四三,八二四	八六一五	—	九,三二〇	二二,五三〇	五,三三三
合計						
合計						
對スル割合						
對スル割合						

(前表ト同シ)

5、市教育ノ狀況——松本長野高田三市ノ外參考ノ爲メニ長岡新潟兩市ヲモ併記セリ。今各市小學校ニツキ其狀況ヲ比較セン。

第三十九表

市小學校ノ狀況										
區分	小學校數		學級		兒童		教科正教員數		學級百ニ對スル本	
	尋常	高等	尋常	高等	尋常	高等	尋常科	高等科	尋常科	高等科
區分	尋常	高等	尋常	高等	尋常	高等	尋常科	高等科	尋常科	高等科
區分	尋常	高等	尋常	高等	尋常	高等	尋常科	高等科	尋常科	高等科
區分	尋常	高等	尋常	高等	尋常	高等	尋常科	高等科	尋常科	高等科
區分	尋常	高等	尋常	高等	尋常	高等	尋常科	高等科	尋常科	高等科
區分	尋常	高等	尋常	高等	尋常	高等	尋常科	高等科	尋常科	高等科
區分	尋常	高等	尋常	高等	尋常	高等	尋常科	高等科	尋常科	高等科
區分	尋常	高等	尋常	高等	尋常	高等	尋常科	高等科	尋常科	高等科
區分	尋常	高等	尋常	高等	尋常	高等	尋常科	高等科	尋常科	高等科

市	松本市	長野市	高田市	長岡市	新潟市
一	七九	四	四	五	九
一〇	一〇	八六	五二	八二	一五七
四〇八二	四〇八二	一三	七	一〇	一五
四二二五	四二二五	三〇六四	四七一四	四七三五	九七三五
四一五	四一五	三一三	四七三	四七三	七四七
七六	七六	五八	八一	八一	一六四
一〇	一〇	八	一	一	一
九六・二〇	九六・二〇	八八・三六	一一・五四	九八・七八	一〇四・四六
一〇〇〇〇〇	一〇〇〇〇〇	一〇七・六九	一一四・二九	一一〇・〇〇	一二六・六七
五一・六七	五一・六七	四九・一三	五八・九二	五七・四九	六二・〇七
四一・五〇	四一・五〇	三九・八五	四四・七一	四七・三〇	四九・八〇
三五・四一一	三五・四一一	四五・〇九〇	二二・一七八	三四・四一五	七四・二一九
七・八七四	七・八七四	九・五四九	六・五六七	六・六三五	七・〇八一

六〇

學級數ニ對スル本科正教員數ハ三市中高田市最モ多ク松本市之ニ次ギ長野市最モ少ナケレドモ此ノ現象ハ同時ニ一學級ノ兒童數ニ於テモ全ク同一ノ狀況ヲ呈シ長野市最モ少數ニ高田市最モ多キニ依リ各市ガ教育上ノ方針ニ於テ自ラ異ル所アルノ故ナルヲ知リ得ベシ。即チ長野市ニアリテハ兒童ノ先天的又ハ後天的ニヨル教育ノ可能要素ヲ基礎トシ之ニヨリテ個人的ニ最モ有効ナル教育ヲ施サントスルノ結果一方ニハ優良者又ハ低能者ニ對スル學級ヲ生ジ一方ニハ子守兒童ニ對スル學級ヲ設クルノ外一教師ノ教授力ニヨリテモ亦兒童數ニ差アルヲ免レズ。從テ兒童數ニ比シ學級數及ビ教員數ヲ増加スルハ勿論ニシテ尙ホ特殊兒童ノ教育ニ於テハ資格ノ如何ニ拘ラズ多年ノ經驗ト特別ナル知識技能アル教師ニアラザレバ到底其難キニ堪フルヲ能ハザルトニ依リテ正教員外ニ准代用教員數ヲ加フル所以ニシテ斯カル方針ノ可否ハ別問題ニ屬シ今ハ暫ク之ヲ論ゼザレド正教員ノ多少ニヨリテ直チニ教育ノ優劣ヲ判斷シ得ベキモノニアラザルハ明確ナリ。而シテ之ヲ小學校經費ニ見ルトキハ兒童一人ニ對スル分當額ニ於テ獨リ長野市ノ頭角ヲ抽ンデタルニ因リ市民ガ如何ニ小學校

育ノ設備内容ノ充實ニ意ヲ用フルカラ推測スルニ難カラザルベシ。尙ホ次ニ各市ノ公學費全体ヲ比較セバ左ノ如シ。

第四十表

市負擔公學費表

(前表ニ同ジ)

區	分	小學校費	甲種實業學校費	乙種實業學校費	實業補習學校費	各種學費	幼稚園費	圖書館費	其他	計	戶數一分當	人口一分當
松本市	四	三五、四一一	—	—	—	—	—	—	二、七七七	四二、六九九	五、二二七	一〇、三三六
長野市	四	四五、〇九〇	九四、六〇〇	—	—	—	—	—	一、〇九九	五六、八二一	七、四六二	一、四〇三
高田市	四	二二、一七八	—	—	—	—	—	—	六〇二	二四、七八六	四、四九四	〇、七八八
長岡市	四	三四、四一五	八六、一五	—	—	—	—	—	一、八一五	四六、二八六	六、一〇八	一、一三一
新潟市	四	七四、二一九	—	—	—	—	—	—	二、八五六	八〇、四四四	五、〇二二	〇、八五四

各市ニ比シ長野市ガ如何ニ巨額ノ投費ニ甘ンジテ教育各般ノ完成ヲ企圖シツ、アルカラ電ヒ得ベシ。更ラニ三市ニ於ケル圖書館ノ狀況ヲ調査セバ次表ノ如シ。

第四十一表

(大正五年信濃教育會報告及ビ同年高田市統計書ニヨル)

區	分	稱	圖書冊數	開館日數	閱人員	經費	經費	營
和漢書	洋書	圖書冊數	開館日數	閱人員	經費	經費	營	

松本市	信濃圖書館松本分館	五九一	—	二五七	二、四一八	一五〇四
長野市	信濃圖書館	二四八九〇	—	二七三	一六、一四四	一、四二〇
高田市	高田圖書館	一七一二三	一四六	三三三	五、五九七	一、〇一五
						高田市
						信濃教育會

6、以上ノ概括——教育上ノ見地ヨリ二縣三市ヲ比較シ來リテ吾人ハ茲ニ長野縣ノ教育ハ新潟縣ニ對シ數歩ノ上ニアルヲ信ジテ疑ハズ。即チ小學校ノ教育ニアリテハ新潟縣ノ尋常小學校ノミヲ卒リテ醫學スル者多キニ比シ長野縣ハ高等小學校ニ進ムモノ多數ニシテ中等教育ニアリテモ其設備ニ縣費ヲ投ズルヲ多キハ長野縣ノ及バザル所ナレモ生徒定員ノ人口比ハ却テ長野縣ノ新潟縣ニ優リ入學志願者及ヒ卒業生ハ實數ニ於テ殆ンド大差ナク更ラニ卒業生ノ上級學校ニ進ムモノ、數ハ各學校共ニ長野縣ノ却テ多數ヲ占ムルヲ知ル。而シテ二縣教育ノ根底ヲ窺フトキハ一ハ縣民ノ貧富並ニ智識程度ニ著シキ懸隔ノアルアリ中等教育ニ資ヲ投ズルコト極メテ厚キモ初等國民教育ニ至リテハ貧弱ノ誹アルヲ免ル能ハザルニ反シ一ハ富ノ分配智識ノ普及概シテヨク平衡ヲ得市町村民ノ小學校教育ノ完成ニ意ヲ用フルコト全國多ク其例ヲ見ズ。加之中等教育ノ施設モ亦決シテ人後ニ在ルモノニアラズシテ一般縣民ノ等シク熱心經營ヲ怠ラザルハ諸統計ノ示ス所ニヨリテ明ナリ。換言セバ新潟縣ノ教育ハ爲政者ノ熱慮經營ニヨリテ行ハル、教育ナルニ反シ長野縣ノ教育ハ國民體ノ自發ニヨリテ活動セル教育ナリト云フヲ得ベシ。而シテ又二縣ノ比較概評ハ直チニ移シテ各市教育ノ

狀況ニ言及シ得ベク之ヲ小學教育ノ上ニ見ルニ經常教育費ノ多キコト長野市ヲ第一トシ松本市之ニ次ギ新潟市、長岡市、高田市ノ順位ニヨリテ遞減セルノミナラズ新潟縣ニアリテハ長岡市ノ唯一甲種商業學校ヲ有スルノ外新潟市ノ大ヲ以テ尙ホ一市立中等學校ノ經營ヲ見ズ。長野市ガ獨力甲種商業學校ヲ經營シ松本市ノ乙種女子職業學校ヲ有スルト相比シ其教育ニ對スル市民ノ熱誠ニ於テ大ニ異ルモノアルヲ知り得ベシ。今仮リニ他條件ノ一切ヲ除外シ單ニ教育上ノ優劣ト教育ニ對スル民心ノ熱心トニヨリテ高等學校ノ位置ヲ撰ムトセバ其新潟縣ニアラズシテ長野縣タルハ多言ヲ要セズ。而シテ長野縣ニアリテハ其松本市ニアラズシテ長野市ナルベキノ理由ハ前記述アル所ニヨリテ已ニ盡セリト云フベシ。況ンヤ他條件ノ各項ニ就キ何レモ長野市ノ適當ナルヲ示シテ著シキ短所ヲ認メ得ザルニ於テオヤ。

第四 高等學校ノ位置トシテ長野市ノ適當ナリト認ムル事項

一、地理ニ關スル事項

1、位置——信越地方ノ中學校卒業生ヲ收容スベキ高等學校トシテ長野縣長野市ハ其中心ニ位置ス。第一高等學校ノ範圍ニ屬スル關東地方ハ人口ノ最モ稠密ナル上ニ於テ收容ニ甚シキ不足ヲ感ジ一校増設ノ一理由ヲナセドモ若シ長野市ニ設置スルヲ得バ群馬縣埼玉縣ノ一部山梨縣ハ當然此ノ範圍内ニ容ル、コトヲ得ベシ。

位置高田ニ偏スレバ新潟縣全部ノ收容ニハ利便ナレドモ長野縣下木曾伊那地方全部ハ第八高等學校(名古屋)ノ範圍ニ入り群馬、山梨二縣及ビ埼玉ノ一部ハ到底收容ノ望ナク加フルニ第四高等學校(金澤)ト位置相近ク却テ必要ナキ富山縣ヲ包容スルノ奇觀ヲ呈スベシ。若シ位置ヲ松本市ニ定ムトセバ山梨縣ヲ容ル、ニハ利便ナレドモ群馬縣及埼玉縣ノ一部ハ其距離遠ク新潟縣ノ大半ハ第二高等學校(仙台)ニ至ルヨリ却テ不便ニシテ第八高等學校(名古屋)ニ近キ飛騨及ビ東濃地方ヲ範圍内ニ加フルニ至ル。

2、水質——長野市ハ大正四年上水道ノ完成ニヨリテ水量ノ豊富ナルノミナラズ水質ハ極メテ良質ト認めラル。殊ニ水質検査ノ結果ニヨレバ「クロール」含有量平均一・〇九五細菌數平均七ニシテ其少キコト全國上水道水質検査ノ比較表中第一位ヲ占ム。

尙ホ長野市ノ水道ハ落差ノ大ナルニ於テ全國上水道中ノ優秀ナルモノニシテ火防上絶大ノ効力ヲ有シ強風ノ少キト相俟チテ大火ノ跡ナク從ツテ全國中火災保險率ノ最モ低キ都市ニ屬ス。

3、氣象——長野市ノ累年平均氣温ハ一〇・八度ニシテ南信地方ニ比シテ高ク上越地方ニ比シテ稍低シ而シテ毎日最高最低ノ差ハ全ク之ニ反ス。

湿度ノ年平均ハ七七ニシテ南信地方ニ比シテ冬季十一月ヨリ三月ニ至ル五ヶ月ハ稍ヤ高ケレドモ四月ヨリ十月ニ至ル七ヶ月ハ低キヲ常トシ上越地方ニ比スレバ常ニ低シ。故ニ氣温ト相俟チテ冬季温暖ニ夏期ニ蒸シ暑キ感少シ。

雨量ハ年總量ノ平均一、〇〇四・〇ニシテ南信地方ノ一、一八一・三ナルニ比スルモ少ク上越地方ニ比シテハ更ラニ少シ而シテ降雪ハ多キモ尙ホ尺ニ達スルハ極メテ稀ナリ。降雨日數ハ冬季間ハ南信地方ニ比シテ稍ヤ多ケレドモ六月ヨリ十月ニ至ル五ヶ月間ハ常ニ少ク北越地方ノ年内陰鬱ナルニ對シ空氣常ニ清澄ナルカ故ニ腦ニ及ボス影響極メテ良好ナリ。

風ハ地勢上西北方ニ山岳ヲ繞ラシ烈風ノ襲來ナク南信又ハ北越地方ニ家屋ノ倒壞アリタル時ニ於テモ長野市ハ曾テ被害ヲ受ケタルコトナシ。

4、地方行政ノ中心地——長野市ハ縣廳其他主要諸官衙ノ所在地ナレバ全國各府縣人ノ來住者多ク子弟ノ入學ニ便宜ナルノミナラズ地方行政ノ中心地ナルヲ以テ諸般ノ利便亦尠カラズ。

5、交通ノ中心地——交通上信越線及中央線ノ中心地ニシテ北陸線ノ分岐點モ亦遠カラズ。長野驛ニ於ケル乗降客ハ信越線各驛中ノ首位ヲ占ムト云フ。

第四十二表

(鐵道院ノ調査ニヨリ)

長野驛乗降者數	大正元年度	大正二年度	大正三年度	大正四年度	大正五年度
乘車人員	五七二、〇六一	五〇六、二二五	四五四、一九三	四〇五、一五七	四九二、五八五
降車人員	五七七、七八一	五一五、〇〇一	四五九、一二四	四三四、八四八	四九二、一七八

二、衛生ニ關スル事項

- 1、長野市ニハ風土病ト稱スベキモノ絶無ニシテ唯腸室扶斯ヲ患フル者アリシガ水道ヲ使用スルニ至リテ殆ンド其跡ヲ絶ツニ至レリ。加之長野市ハ土地高燥ニシテ陰濕ナラズ水質佳良ナルヲ以テ脚氣病等ニ犯サル、モノナシ。
- 2、長野市ハ商業地ナルヲ以テ工場ノ數極メテ少ク煤煙ノ飛散スルコトナシ。且ツ冬季ノ氣温高キト湿度ヲ適度ニ含ムガ故ニ一般ニ呼吸器病ニ罹ルモノ、數比較的少シ。
- 3、長野市ニハ赤十字社長野支部病院及ビ其他ノ病院アリテ完全ナル施設ヲ有スルヲ以テ醫療上至便ナリ。
- 4、生徒体格検査ノ結果ニヨレバ長野中學校ノ生徒ノ体格ハ縣下ノ學校ニ比シ強健者ノ百分比最モ多ク薄弱者少キヲ見ル。

第四十三表

(大正四年度長野縣學事統計表ニヨル)

學校別	検査人員	體格				百分比					
		強	健	中	等	弱	同	健	中	等	弱
長野中學校	六四〇	五四七	九一	二	八五・四六	一四・二二	〇・三三				
松本中學校	六八四	二五六	三五六	七二	三七・四三	五二・二四	一〇・五三				

5、第十三師團ノ壯丁検査ニヨレバ長野市ハ徵兵合格者ノ比各市中最モ多數ニシテ殊ニ長野市附近ニハ疾病ニ罹ル者ノ數少ナシ。

三、民情ニ關スル事項

- 1、長野市及ビ附近町村ノ人々ハ一般ニ質素勤勉ニシテ投機的事業ヲ好マズ。極メテ着實穩健ノ志尙ヲ有ス。從テ華美ヲ競ヒ遊惰ニ耽ルノ弊ナク殊ニ淫靡ノ風少キハ醜業婦及ビ料理屋飲食店等ノ比較統計上ニ見ルモ明ナリ。
- 2、巨萬ノ富ヲ有スル者ナキモ極貧ノ細民ナク市民ノ生活ハ比較的安穩ナリ。故ニ青年學生ノ教育地トシテ適當ナリト認ム。

四、教育ニ關スル事項

- 1、長野市ニハ信濃教育會ノ經營ニ係ル縣下第一ノ圖書館ヲ有シ學生ノ研學ニ便利ナリ。
- 2、長野市ハ由來教育ノ發達ニ留意シ明治二十七年ニハ子守教育所ヲ創メ二十九年低能兒ノ教育ヲ設ケ三十四年盲啞教育所ヲ興シ又或ル時ハ市費ニヨリテ高等女學校ヲ經營シ現ニ甲種商業學校ヲ設置セリ。而シテ縣立各種學校ニ對シテハ極メテ好感情ヲ有ス。今ヤ高等學校ノ設置セラル、ニ當リ市民ハ地ヲ長野市附近ニ定メラレンコトヲ熱望シ總テノ利便ヲ提供スルト共ニ指定ノ寄附ハ之ヲ辭セザルノ狀況ニアリ。
- 3、長野中學校ノ卒業生數ハ殆ンド松本中學校ト相若キ北信四中學校ト南信四中學校トノ卒業生數ヲ比較セバ前者ノ數後者ヨリ常ニ多シ。

縣下中學校卒業者累年比較表

中學校別	大年度正					合計	平均年
	元年度正	二年度正	三年度正	四年度正	五年度正		
南	八七	一〇八	八八	一〇六	九四	四八三	九六・六
松本中學校							
飯田中學校	五七	五九	五四	五四	三四	二五八	五一・六
諏訪中學校	五一	四九	五六	六一	六二	二七九	五五・八
大町中學校	二一	三五	四〇	三六	二六	一五八	三一・六
小計	二二六	二五一	二三八	二五七	二二六	一、一七八	二三五・六
北	九八	九二	八九	九八	七九	四五六	九一・二
長野中學校							
上田中學校	七五	八八	八七	八五	八七	四二二	八四・四
野澤中學校	四〇	五〇	四三	五六	五九	二四八	四九・六
飯山中學校	三七	四五	四一	四二	三〇	一九五	三九・〇
小計	二五〇	二七五	二六〇	二八一	二五五	一、三二二	二六四・二

五、經濟ニ關スル事項

1、長野市ハ東京及ビ直江津トノ中間ニ在シ交通至便ナルガ故ニ米穀ヲ始メ魚介等物資ノ供給豊富ニシテ
 2、時價モ亦低廉ナリ。從テ學生生活上極メテ經濟的地點ナリ。

六、其他ノ事項

- 1、學生ノ身体ヲ鍛練シ精神ヲ鼓舞セン爲メニハ北方柏原驛ヲ去ル一里野尻湖アリ東西三十町南北十五町内ニ辨天島アリ清冽ノ水ヲ湛フ。千曲、犀ノ二川ト共ニ以テ水泳操艇ヲ試ムベク西北二里餘飯繩ノ高原アリ冬季「スキー」ノ好適地ナリ。高原ノ西北方ニハ飯繩戸隱黒姫乙妻等八千餘尺ノ高峰相連リ以テ登山跋涉ヲ試ムベク又高山動植物ノ研究ヲナスヲ得ベシ。
- 2、古跡及ビ名勝地トシテハ善光寺ノ巨剎ヲ始メトシ川中島ノ平野ニハ各所ニ古ノ戰跡ヲ存マ海津城ノ古趾佐久間象山ノ出生地タル松代町ハ指呼ノ間ニアリ。其他戸隱神社、姨捨山等アリテ歴史及ビ藝術上ノ研鑽ニ資スル物亦尠カラズ。
- 3、長野市附近ハ温泉ニ富ミ戸倉、上山田、等最モ近ク澁、安代、野澤等亦有名ナリ。
- 4、高等學校設置ノ候補地ハ長野市ノ内外數箇所ヲ存シ土地廣濶高燥ニシテ衛生ニ適シ四圍ノ狀況亦適良ナリ。

~~283~~ 376.7
~~24~~ N16

終

